

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

想定蔵  
手  
筋

SHIPPING ADVICE # 70132  
Box  
SACK # 1  
ITEM # 46

国立公文書館	
分類	⑬ ⑭
配架番号	3 A
	14
	20-10

3232

NY

46. Handwritten mimeographed loose-bound file, "Maneuver Plans, U. S. A. 1945-1946".

めく  
れ  
ず

想定

一、敵國境東方面軍（第一乃至第四軍基幹）ハ昨年十一月下旬以來出境ニ兵力ヲ集中中ナリシカ二月十三日赤軍國境陣地ニ對シ急襲攻浪ヲ開始セリ其ノ任務ハ南東平地ノ敵ヲ擊破シ且東京ヲ攻略スルニ在リ攻浪開始前ニ於ケル一般態勢附圖第一ノ如シ

二、第一軍（第一乃至第七師團及戰車第一師團基幹）ハ主力ヲ以テ守都宮北方地区ノ敵國境陣地ヲ突破シ一擧ニ瀋陽一守都宮ノ線ニ進出シ爾後速カニ下館方向ニ進軍ヲ擴張シテ敵軍主力ヲ殲滅スヘキ任務ヲ負シ激戰ノ後敵第一陣地（主陣地）、第二陣地ヲ奪取シ二月十九日以來第三陣地ニ對シ攻浪中ニシテ二十日十一時頃ハ態勢附圖第二ノ如シ

三、戰車第一師團ハ二月十八日夜以來内家西北地区ニ在リテ軍司令官ノ企圖ニ基キ突破孔ヨリ敵ノ陣後ニ向テ挺進ヲ準備中ナリ

四、敵ノ空中勢力ハ頗ル優勢ナリシモ爾戰後敵機ニ於ケル威力飛行部隊ノ

敵空軍據地ニ対スル果敢適切ナル奇襲攻襲ニ依リ其ノ勢力ヲ大イニ減殺セラレ目下彼我ノ空中勢力ハ概ネ伯仲ノ向ニ在リ

五、戦車第一師団ノ編制裝備ノ概要附表ヲ如ク其ノ細部ハ別冊ノ如シ

六、平時調査及飛行機偵察ニ依ル兵要地理ノ概要左ノ如キモ其ノ細部ニ関シテハ更ニ偵察ヲ要ス

一、水田ハ冬季堅硬ニシテ自動車類ノ通過ヲ許スモ裝輪車輛ハ着シク速度ノ低下ヲ惹レス

二、関東平地ハ道路網四通八達シニ十分ノ一及五十分ノ一ニ條實線路ハ概ネ自動車ノ行達ヲ許シ五分ノ一ノ片點線路モ亦自動車ノ通過ヲ許スモノアリ

三、鉄道ハ西那須野以北及東京以南ニ現存スルノミニシテ其ノ他ハ現存セス

四、利根川ハ前橋附近ヨリ下流ニハ徒渉場ナシ、鬼怒川ハ冬季減水シ内河附近ヨリ上流ハ所々徒渉ヲ許ス同地ヨリ下流ニ於テモニ條實

線路ノ通スル附近ニハ概ネ自動車ノ徒渉ヲ許ス所アリ  
其ノ他ノ小流ハ所々諸兵ノ徒渉ヲ許スカ如シ



戦車第一師団編制裝備ノ概要 (演習用)

部 隊	區 分	編 制 / 大 要	員 数 概 要			摘 要
			入	KI	口	
KI	1TKB 2TKB	一旅師団司令部 = 彈不 (長少將 參謀長、參謀 = 副官 = ) TK = 聯隊ヲ指揮スル = 必要ナ ル指揮機関ヲ有ス	230	尙甲4 尙9	50	
			100	尙甲2 尙4	15	1TKB<1TK 2TK
			100	尙甲2 尙4	15	2TKB<3TK 4TK
			1050	83	140	
KI	1TK 2TK	B(尙甲2, 乙1, 尙4, 尙1) LTK = 中 (三小, 一ホハ三輛) MTK = 中 (三小, 一ホハ四輛) ATK = 中 (三小, 一ホハ三輛) TZ = 中	1050	83	140	
			1050	83	140	
			1050	83	140	
			1050	83	140	
KI	3TK 4TK	P RA中隊 (三小) MA中隊 (三小)	1050	83	140	
			1050	83	140	
			1050	83	140	
			1050	83	140	
機動歩兵聯隊	速射砲大隊	P RA中隊 (三小) MA中隊 (三小)	3300	尙Z 30	430	
			540	尙Z 29	100	
			930	30	110	
			930	30	110	
機動砲兵聯隊	工 兵 大 隊	本部 = 大 (九OA一次(三平))TZ = 中 (三小) 本部 甲四中隊 乙一中隊 TZ = 中 本部 甲四中隊 乙一中隊 TZ = 中	2340	尙Z 4D	380	牽引トス
			1500	尙4 尙13 尙27	160	配屬部隊以
			360	尙Z 11	60	
			1900	尙Z 27	600	
衛 生 隊	合 計	本部、憲兵中隊、三野戰病院一	880	尙Z 21	120	
			17280	519	2750	

1. 戰列隊ノ自動車ハ裝軌トス
2. 尙ハ指揮戰車、尙ハ工作戰車トス

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

關東方面軍一戰態勢要圖

於攻出開始前

想定附圖第一

關東方面軍作戰指導要領ノ大綱

一 集中當初ヨリ國境ニ近ク

展開シ概テ第一線各軍ノ集中完結

ヲ俟テ攻勢ヲ開始シ決戦ヲ患ヒ利根川

五ニ水メテ敵陣地ヲ突破シ之ヲ東南方ニ

掃蕩シテ敵主力ヲ利根川左岸地区ニ潰滅ス

ニ若シ敵主力ヲ利根川以南ニ退スレニ於

テハ速カニ態勢ヲ整理シ利根川ヲ

渡河シ逐次東南方ニ圧迫

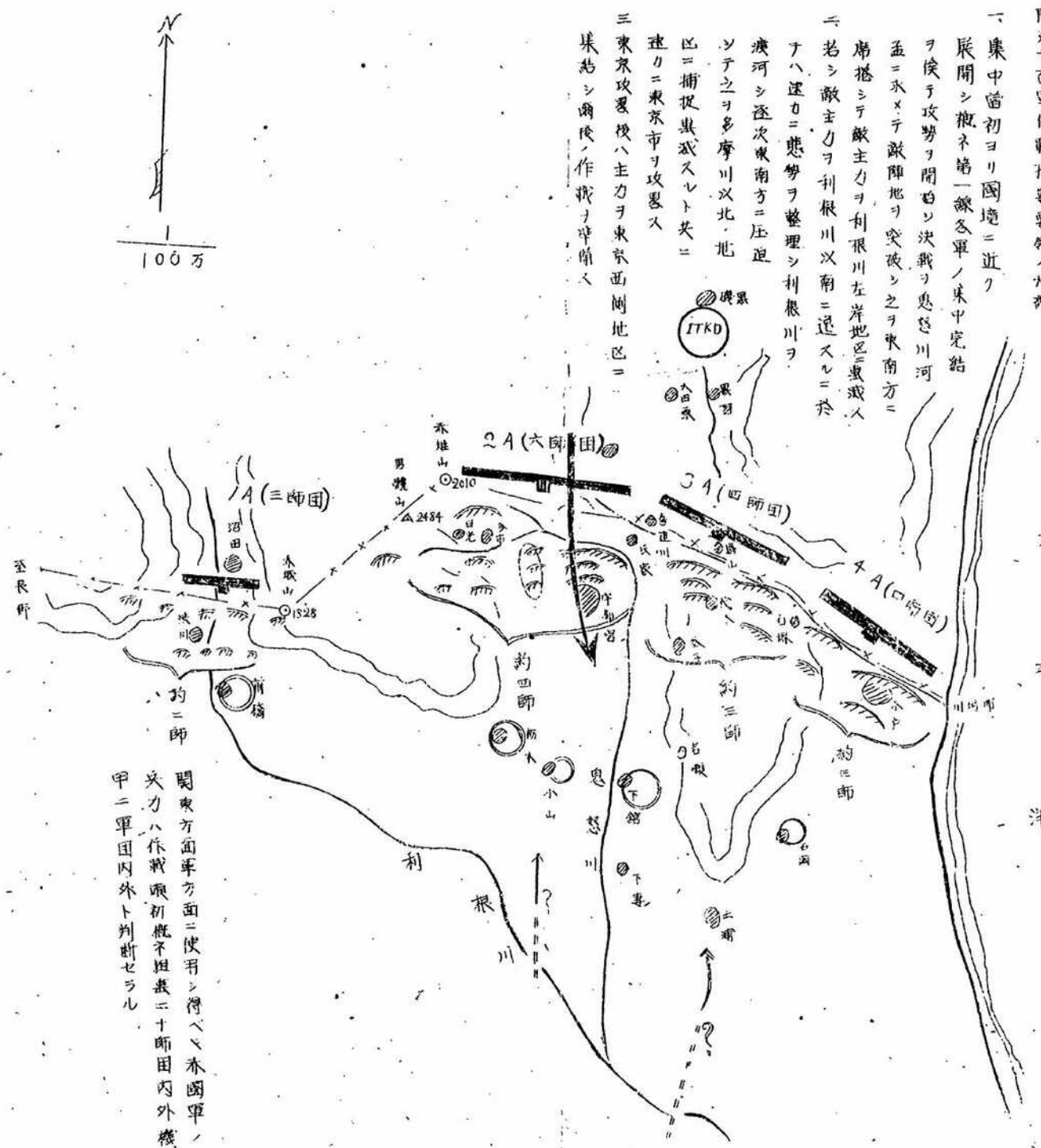
シテ之ヲ多摩川以北ニ地

區ニ捕捉異式スレト共ニ

速クニ東京市ヲ攻取ス

三 東京攻取後ハ主力ヲ東京西側地区ニ

集結シ爾後ノ作戰ヲ準備ス



關東方面軍方面ニ使用シ得ベキ赤國軍ノ  
兵力ハ作戰開始前概テ但表ニ十師団内外機  
甲ニ軍団内外ト判断セラル

註

一 藍國ハ北太平洋方面ヲ其ノ領土トシ本州北部、北海道及樺太ヲ領土トスル黃國ト又同防衛ノ  
盟約ヲ保有シ所要ノ陸軍部隊ヲ以テ黃國内ニ駐屯ス

赤國ハ南部支那方面ノ本土トシ本州西部、四國及九州ヲ併セ領有ス

二 黃、赤國ノ國境ハ概テ長野、水城山、男體山、赤碓山、喜連川、鳥山、那珂川ヲ連スル線トス

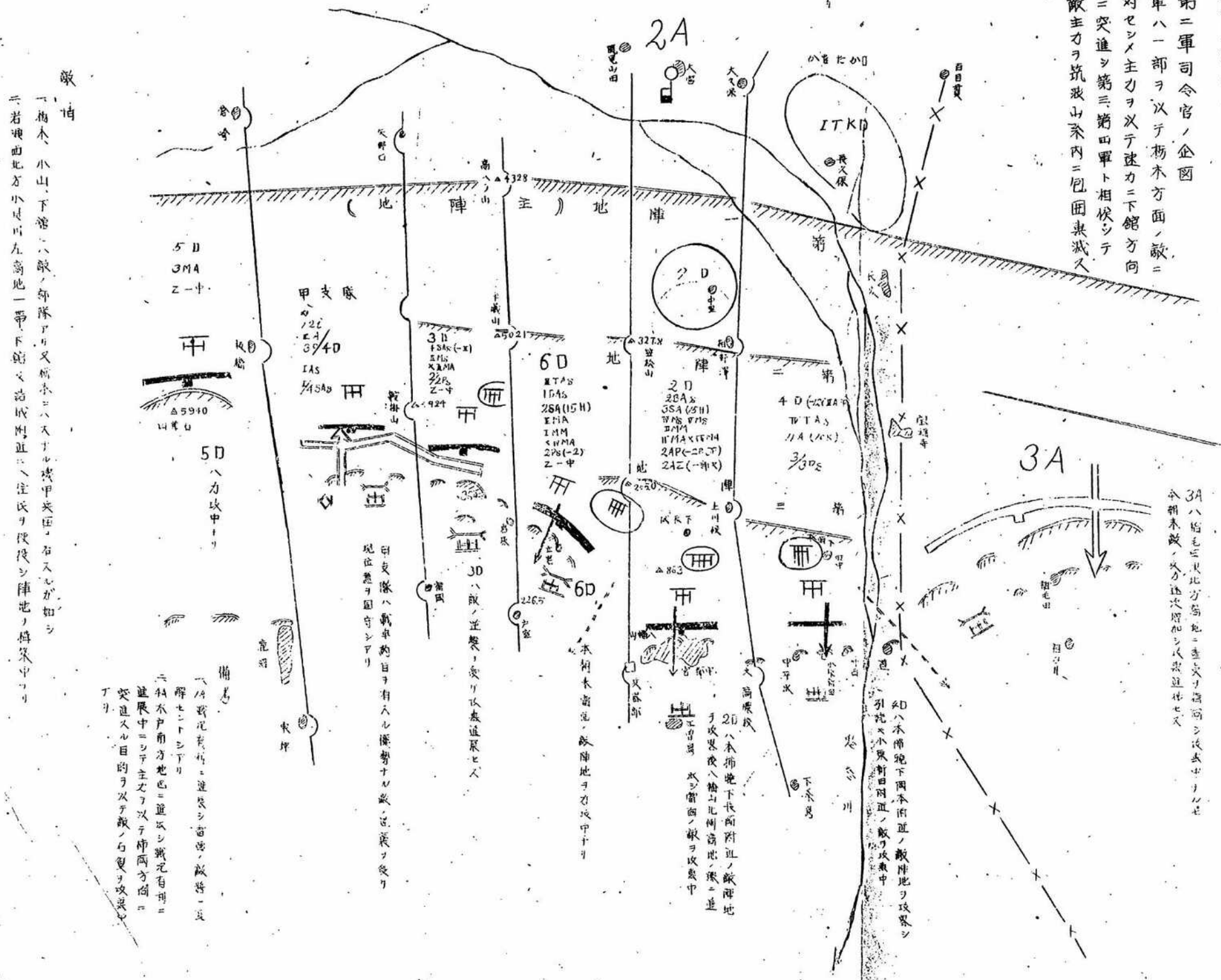
裏面白紙

第二軍態勢要圖

三月二十一日時於此

想定附圖第二

第二軍司令官ノ企圖  
軍ハ一部ヲ以テ栃木方面ノ敵ニ  
對シテ主力ヲ以テ速カニ下館方向  
ニ突進シ第三第四軍ト相俟シテ  
敵主力ヲ筑波山系内ニ包圍兼滅ス



3A 八橋毛ニ北西方高地ニ進ミ火ヲ強シテ攻中ナルモ  
今朝未敵ノ火ヲ逐次増加シテ攻進中ニシ

2D 八橋毛下方面附近ノ敵陣地ヲ攻撃シ  
テ攻果後ハ橋山北側高地ニ進  
工中ニシ 水ヲ斷斷ノ敵ヲ攻撃中

甲支隊ハ戰車約百有八輛擁護ナリ敵ノ進退ノ後ヲ  
現位置ヲ固守シテアリ

備忘  
ハハ戦況ニ對シテ進退シテ敵ノ攻勢ニ  
對シテ固守シテアリ  
ハハ栃木方面高地ニ進退シテ戦況有利ニ  
進展中ニシテ主力ヲ以テ下館方面ニ  
突進スル目的ヲ以テ敵ノ右翼ヲ攻撃中  
ナリ

敬告  
一 栃木、小山、下館ニハ敵ノ部隊アリ又栃木ニハ入ル決甲兵団ノ右翼ノ如シ  
二 若波西北方小山川左高地一帶、下館ニ結成附近ニハ注意ヲ要シ陣地ノ構築中ナリ

裏面白紙

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100





第一 狀況

一 戦車第一師団長ハ軍ノ企図ニ基キ挺進ヲ準備中ニ十日一三〇〇左記  
要旨ノ軍命令ヲ受領セリ

第二 軍命令ノ要旨

- (一) 軍ハ攻襲ヲ続行シツツ下轄方向ニ急襲ヲ準備セントス
- (二) 戦車第一師団(直協機行第七中隊属)ハ明ニ十一日早朝宇都宮附近ニ於テ敵線ヲ突破シ鬼怒川左岸地区深く侵入シテ軍主力ノ作戦ヲ容易ナラシムヘシ
- (三) 第一機行団(戦斗戦隊、機隊一戦隊)主力ヲ急カセシメラル
- (四) 第七師団ハ即時行動ヲ開始シ第七師団右翼方面ヨリ栃木方向ニ前進シ当面ノ敵ニ対シ軍主力ノ右側ヲ掩護スヘシ
- (五) 第五師団、甲支隊、第三師団ハ速カニ当面ノ敵ヲ襲破シ鹿沼及鹿沼街道ノ線ニ進出シ爾後、進襲ヲ準備スヘシ

(四) 第六師団ハ攻東ヲ続行シツ、石橋―下館南側地区方向ニ進東ヲ準備スヘシ

(五) 第三師団ハ攻東ヲ続行シツツ上三川―下館方向ニ追東ヲ準備スヘシ

(六) 第四師団ハ攻東ヲ続行シツツ真岡―岩瀬西南側地区方向ニ追東ヲ準備スヘシ

(七) 第二、第四師団ハ特ニ戦車第一師団ノ突破ヲ援助スルト共ニ其ノ戦果ノ利用維持ニ努ムヘシ

(八) 作戦地域ヲ左ノ如ク延伸ス

第六師団 兵器部―上三川西端―下館西端

第二師団 下桑島―勝瓜(真岡西北四軒)―仁志(岩瀬西南八軒)

第四師団 以下略

(九) 軍砲兵隊ハ現任務ヲ続行スルト共ニ明二十一日拂曉戦車第一師団

ノ突破ヲヨリノ前進ヲ掩護スヘシ

(十) 各兵団ハ二十日夜戦車第一師団ノ前進ノ為ニ作戦地域内道路ヲ開放スヘシ

細部ハ相互協定スヘシ

二、同時頃迄ニ戦車第一師団長ノ知り得タル状況ヲ想定附図ノ外左ノ如ク  
左 記

(一) 第三師団ハ十二時頃八幡山ノ一角ヲ占領シ攻東続行中ニシテ師団長ハ明二十一日拂曉迄ニ宇都宮市南側ニ進出ヲ企図シアルモノノ如シ

(二) 第四師団ハ十二時頃<sup>△</sup>東組ノ線ニ進出シ爾後ノ攻東ヲ準備中ニシテ明二十一日拂曉迄ニ高等農林学校―鬼怒橋ノ線ニ進出ヲ企図シアルモノノ如シ

(三) 栃木、小山附近ノ敵部隊ハ行動開始ノ模様ナシ(一ニ三〇頃)

(四) 有カナル機甲部隊ハ真岡ヨリ祖母井方向ニ前進中ナリ(一ニ二〇頃)

項)

(五) 鬼怒川橋(念々)ヨリ上流ノ鬼怒川諸橋梁ハ敵ノ為破壊セラレタルモ軍ノ前進ニ伴ヒ之レヲ修復セリ  
氏家ヨリ東蘆沼ニ至ル片吳線路(五万)ハ自動車道ニ改修セラレ  
鬼怒川ニハ軍橋ヲ架設セラレアリ亦押上(氏家西北四料)両方ヨリ中  
組(押上西南三料)ニ至ル片吳線路(五万)ハ自動車道ニ改修セラレ  
鬼怒川ニハ軍橋ヲ架設セラレアリ

第一内 題

戦車第一師団挺進計画

(其ノ一)

方針及指導要領

簡單ナル要図ヲ附スヘシ

注 意

- 一、挺進ノ為ノ部署(軍隊区分、各隊ノ任務、行動等ニ関シテハ第二内 題ニ於テ詳察ス)
- 二、師団ハ大久保(氏家西北八料)、氏家北側、松山(氏家東北三料) 概内 (氏家北七料) 片岡駅間ニ嚴ニ上空ニ秘匿シ集結シ師団司令部ハ蒲須坂(氏家西西北四料)ニ在リ各部隊ノ配置ハ各自考定スヘシ

第一向題 策案

南軍第一師團進軍計画ノ概要 (一頁ノ一)

第一 方針

一 四州八第一線交回ニ緊密ニ進撃シテ其ノ戰果ヲ利用シ守部迄及同  
 地東側山岳川間ニ於テ敵線ヲ突破シ先ツ一撃ニ下館附近ニ侵入シ  
 テ陣後ニ於ケル軍ヲ決戦ヲ容易ナラシム

二 南軍進力ニ土浦方面ニ突進シテ敵主力ヲ雙川左岸地區ニ捕獲ス此  
 ノ戰狀ヨリ依リ有カナル一部若クハ主力ヲ以テ取守 木下附近利  
 根川渡河点ニ進出シテ敵ノ退路ヲ遮断ス

第二 指導要案

一 偵察及連絡ニ二月二十日一

二 各部隊ヨリ所要部隊ヲ派遣シ此ニ以テ準備位置ハ、進路ノ偵察  
 線示ヲ完全ナラシメ又且攻取準備位置一集結地一ヲ偵察探知ス又  
 要ムレバ進路ノ補修ヲ実施ス



四 飛行団

飛行団ノ上空特ニ突進準備位置ニ友軍前線起程前夜、上空ヲ  
掩護ス、状況ニ依リ師団前進北高ノ敵砲兵ヲ制圧ス

夕突攻、同敵後方交通線中隊甲部隊ノ攻撃ニ對シ警戒スリト共ニ、  
第一、第四師団ノ進出ヲ容易ナラシム

四 陣後ノ突進

ノ敵陣ノ突破ヲ予期スルニ至レバ押取隊ヲ速カニ急回員附近ニ躍  
進セシメ下館方面ノ敵情ヲ探察セシム

ノ師団主力鬼怒川左岸地區ニ進出セバ特ニ左側背ヲ警戒シソツツ一  
線ニ下館附近ニ前進ス

五 師団主力ノ戦闘態勢ニ際シテハ飛行団ヲ協力セシム  
五 下館以南ノ突進  
状況ニ依リ定ム

第一師団 第一師団 第一師団

第一師団 第一師団 第一師団

第一 方針

第一師団ハ第一線友軍ニ緊密ニ連絡シテ其ノ戦果ヲ利用シ守備隊及同  
地水側鬼怒川間ニ於テ敵線ヲ突破シ先ツ一線ニ下館附近ニ侵入シ  
テ陣後ニ於ケル陣ノ決戦ヲ容易ナラシム

二 陣後速カニ土浦方面ニ突進シテ敵主力ヲ雙川左岸地區ニ捕獲スル  
ニ戦況記ニ依リ有力ナル一部若クハ主力ヲ以テ取手、水戸附近利  
根川、河原、進出シテ敵ノ退路ヲ遮断ス

第三 指導要領

一 偵察及連絡(二月二十四日)

二 各部隊ヨリ所要部隊ヲ派遣シ以テ攻撃準備位置ハノ進路ノ偵察  
態勢ヲ完全ナラシメ且攻撃準備位置ハ集結地ニテ偵察探知スル  
要スレバ進路ノ補修ヲ実施ス



第一問題 研究、説明事項  
一 堅陣突破ニ於ケル戦車師団ノ用法

一〇 案戦車師団編制ノ要旨ニハ「戦車師団ハ主トシテ陣地攻撃ニ於テ一般師団、突破孔ヨリ挺進シ敵帯ニ線兵団ノ對抗策ヲ打破シ戦果擴張ニ仕ジ会戦ニ決定的成果ヲ齎ラシムルモノトストアリ」一般師団、突破孔トハ陣地帯ノ全縱深ヲ突破シタルヲ意味スルヤ或ハ一部若クハ大部ノ陣地帯ヲ突破シタル時期ナリヤ不明ナルモ戦車師団トシテハ成ルベク全縱深ヲ突破セル時期ヲ適當トスベシ

蓋シ陣地攻撃ニ於テ勝敗、決ヲ決定的ナラシムルハ突破後ニ於テ敵帯ニ線兵団ハ大ナル機甲兵団ヲ含ムノ逆襲、突破孔閉塞等ノ企圖ヲ要推シテ敵主カヲ殲滅マルニ在リ従来突破ノ不成功ニ終レルハ突破後ニ於ケル決戦ニ於テ徹底的勝理ヲ得ザリシニ依ル從ツテ此ノ際機甲兵団ヲ使用シ突破後ノ決戦ニ於テ其ノ偉



大ナル戦闘能力及突破速度ヲ利用シ当直ノ軍、正面撃破ハ速ク  
敵全線ヨリ救護シ来ル者ニ線兵団ノ對抗策ヲ打破シテ戦果擴張  
ニ任ジ全戦ニ決定的成果ヲ齎ラシムルコト緊要ナレバナリ  
「註」○軍防禦ノ根本觀念

攻害威力ノ増大ニ伴ヒ攻者ノ真面目ニシテ大規模ナル突  
破ニ對シテハ防禦ハ戰術的ニハ成立セズ必ズヤ戰略的預  
備部隊ヲ以テスル反表又ハ突破孔肉塞等ニ依リ戰略的ニ  
防禦目的ノ達成ヲ企圖スヘキモノト考ヘアリ之カ爲軍防  
禦依據ニ於テハ前テ地帯内戰術地帯前ニ於テ敵ヲ突破シ  
少クモ戰術地帯内ニ於テ殲滅スルニ勉メ敵突破シ来ラハ  
戰略地帯及後方地帯ニテ破壊ス

逆襲ハ敵兵力ヲ驅逐スルニ非ズ殲滅スルヲ目的トス  
又戰車師団ハ陣地突破ヲ不利トスルニハ非ガルモ陣地帯ノ突破ニ  
於テ相当ノ損傷ヲ蒙ルバク然ルトキハ其ノ戦力ヲ消耗シテ陣後

ノ決戦ニ於テ威カヲ發揮シ得ズ突破ノ完成ヲ期待シ得ガルニ至  
ルベシ

戰車師団ノ數少クテ處ノ子式ニ緊要ナル地點ト時期トニ於テ  
使用スルノ区ムヲ得ザル狀況ニ於テ然リ

戰車師団ノ數ヲ増加シ得タル候ニ於テハ其ノ用法ハ自ラ差異ヲ  
主ズルニ至ルベキモノト思考ス

ニ前進（挺進）目標ノ選定

此ノ種兵団ノ前進目標ハ兵団ノ任務ヲ基礎トシ自己兵団ノ作戰  
能カヲ考察シ敵情並ニ我が軍主力ノ狀況ニ即應シ免メテ急襲的  
ニ戦果ヲ拡張獲得スル如ク敵軍後方ノ要點ニ殺到スル如ク目標  
ヲ選定スルヲ可トセン即チ

中突破後ノ決戦ニ於テ敵ノ死命ヲ削シ會戰ノ決定的成果ヲ獲得  
シ得ベキ戰略上ノ要點

○主要ナル敵軍ノ企圖及行動（主トシテ敵若ニ線兵団ノ對抗策

タル突破孔ノ閉塞、陣後ニ於ケル反撃、逆襲等）ヲ未然ニ破  
摧シ得ベキ戦略上ノ要點

等ニ選定トスルヲ適當トセシ

又第二軍が主力ヲ以テ下館方向ニ突進シ第三、第四軍ト相俟ツテ  
敵主力ヲ筑波山系内ニ包圍盡滅セントスル状況ニ於テハ士浦附  
近ハ敵軍主力ノ背後ヲ遮断シ且包圍ヲ完成シテ軍ノ全圍寇遂ヲ  
有利ナラシメ以テ敵ノ死命ヲ制シ全戦ノ決定的成果ヲ獲得シ得  
ベキ戦略上ノ要點ナリ

結城及下館附近ヨリ岩瀬田北チ小貝川右岸高地ニ互リ構築中ナ  
ル敵陣地ハ我が突破ヲ制限シ敵第ニ線兵團ノ行動ノ支障タルベ  
キ陣地ト判断セラルルヲ以テ前述同ニ適合スベキ戦略戦術上ノ  
要點タルベシ

3 本状況ニ於ケル戦車師団ハ其ノ任務ニ基キ第一、第四師団ノ戦  
果ヲ利用シ且其ノ戦果擴張ニ即應スル如ク其ノ突破孔ヨリ突進

シ隨所ニ敵ヲ突破シテ先ヅ一撃ニ下館附近ニ侵入シテ敵第ニ線  
兵團、對抗策ヲ未然ニ破摧シ以テ軍ノ陣後ニ於ケル決戦（戦果  
拡張）ヲ容易ナラシメ爾後速クニ土浦方向ニ突進シテ敵主力ヲ  
櫻川左岸地区ニ捕捉スルコトニ依リ敵主力ヲ筑波山系内ニ壓倒  
殲滅セントスル軍ノ企圖遂行ヲ達成シ得シムベシ  
此ノ際敵ノ退却状況ニ依リ有カナル一部若クハ主力ヲ以テ取手  
及木下附近ノ利根川渡河點ニ進出シテ敵ノ退路ヲ遮断スルノ必  
要ヲ生ズルコトアルベシ

三 突破正面ハ河田ノ作戦正面

ハ機甲軍内ノ師団ナルト獨立師団ナルトニ依リ其ノ突破ノ正面ハ  
自ら差異ヲ生ズベシ

何レニモセヨ戦車師団ノ主体タル戦車部隊ヲ集結使用シテ其ノ  
戦車密度（戦闘正面ト縱長区分）ヲ大ナラシムルヲ緊要トスト  
雖モ此ノ種兵團ハ戦車ヲ主体トスル諸兵結集ノ統合戦闘カノ基

揮ニ依リ始メテ其ノ特性ヲ發揚スルヲ得ヤク其ノ行動ハ多分ニ  
機動的柔軟性ヲ必要トス之ガ爲師團ハ諸兵ノ適合戰闘クニ依ル  
機動的攻取威カヲ發揮シ得ルコトヲ考慮シテ適當ナル突破正面  
（依戰正面）ヲ喫ツルコト緊要ナルベシ  
「参考」

西チ第一期休戦ニ於ケル「ク」ラ「イ」スト「ル」軍ハ約十箇ノ機甲  
兵團ヲ有シ第一機團タル「ク」ガ「リ」アン「シ」機團ハ依戰正面  
三〇—四〇料ノ正面ヲ負擔シテ戰闘セリ即チ戰車一師團ニ  
ハ約一〇料ノ正面ヲ有セシメ機動的戰闘ノ遂行ヲ容易ナラ  
シメタリ

又本狀況ニ於テ突破正面ヲ察川、田川向、地区或ハ田川、鬼怒川  
間ノ地区ノ一チニ限定スレハ其ノ正面ヨリスルモ道路網ノ狀況  
ヨリスルモ師團ノ機動的柔軟性ヲ限定スルニ至ルベキヲ以テ適  
當ナラザルベシ

3 師團ノ依戰地域ハ本狀況ノ如ク戰車師團ヲ深ク敵戰略縱深ニ對  
シテ指向スルニナリ敵後方ノ狀況不明ニシテ戰勢浮動スルノ狀  
況ニ於テハ此ノ種兵團ノ特性上其ノ行動ヲ依戰地域ニ依リ均求  
スルコトナク單ニ依戰任務ト主要進路ヲ明示シ以テ師團ニシテ  
奔放自在ノ機動的依戰ヲ指導スルヲ有利トスベシ  
四 挺進準備位置（第一線兵團ノ後方ニ集結）ヘノ進軍ノ時期及部署  
ニ就テ

人進軍ノ時期

戰車師團ノ突破ハ不意急襲ナルヲ要ス從ツテ戰車師團ハ鬼怒川  
右岸ニ進出スルノ時期ニ關シテハ大イニ考慮ヲ要ス即チ戰車師  
團主力ハ本二十日日及前ニ鬼怒川右岸ニ進出スルトキハ敵ニ我  
カ企圖ヲ察知シ不意急襲ヲ期待シ得ザルニ至ルベシ即チ  
四 機動ヲ成ルベク速カナラシムル爲進軍ヨリ行動ヲ開始シ第一  
線兵團ノ後方ニ集結スル案ハ敵線突破ノ攻勢準備ヲ周到容易

ナラシメ得ルノ利益アリ然レドモ戦車師団、突破正面ヲ避テ  
ニ敵ニ察知セザルニ對シテ、處置ヲ講ゼシムルノ餘裕ヲ與フ  
ルノ不利アリ

四 戦車師団主力カハ日没後行動ヲ遂行シテ第一線兵團ノ後方ニ集結  
スル案ハ其ノ機動及集結ハ決シテ容易ナラザルモノアルベキ  
モ本狀況ニ於テハ夜間機動及集結ノ爲ニ準備ニ着手セルモ  
ノアルベク尚準備ノ餘裕ヲ有スルヲ以テ大ナル錯誤ヲ生ジ  
明 朝ノ攻撃（敵機突破）ニ支障ヲ生ズルガ如キコトナカ  
ルベシ  
ハ 二十一日拂曉ヨリ戦車師団ノ主力ノ機動ヲ開始スルモノハ機  
動ヲ迅速容易ナラシムルノ利アルモ突破ノ部署ニ移ルニハ相  
當ノ時間ヲ要シ第一線兵團トノ協同連絡コト十分ナラシムルヲ  
得ズ又鬼怒川渡河ニテハ敵機ノ攻撃ヲ受ケルニ於テハ行進中  
ニク運搬シ戦機ヲ失スルニ至ル等ノ不利アリ  
又 進入ノ部署

四 進入ノ部署ハ突破部署ニ即應セシム

ハ 突破ニ於テ狀況ニ依リ先ヅ兵隊、砲兵等ヲ使用スル爲メ先  
遣シテ所要ノ攻撃準備ヲ実施セシメ或ハ進路補（改）修等ノ  
急工兵ノ一部等ヲ日没前ニ先行セシムルコト有利トスルコトア  
ルベシ

五 先行セシメ得ルヤ否ヤハ部隊ノ状態維持ニ前進路ノ開放セ  
ラレアリヤ及之ハ交通整理ノ難易等ニ依ルベシ

五 集結地ヨリ挺進準備位置ニ戰闘ヲ入テ、前進要領

ハ 設働（前進速度）ヲ大テラシムル爲メ、定置

ハ 進路ノ補（改）修、工兵及補修材料ノ要結配置

ハ 第一線兵團トノ周密ナル協定

ハ 隊ウナリ交通規正部隊ヲ編成シ時至ナル交通規正要領ヲ規正

シ察ニ之ヲ実行セシム

ハ 進路ノ標示、交通要領ヲ行フ

四 攻陣中、延滞ナル處理

五 陣部ニ對シテ連絡、地形ヲ熟知セシム

六 敵軍及連絡

七 戰費加入ノ要領、行程等ニ依リ差違アルモ、多クノ道路ヲ利用ス

八 出發時刻及前進区分

九 戦況ニ即應スル如ク決定ス

終 結

從前ノ通信狀況ト大差ナクラシムル、如ク著意ス

從ツテ連絡ハ主トシテ有線電話ニ依リ無線通信ヲ削減ス但シ緊急ノモノハ送信機ニ節目ヨリノ送信可能ナシムル如ク常ニ準備シ置クノ要アリ

六第一線兵團超越ノ要領及關係兵團トノ協同

ノ超越ノ時期

(1) 時刻的ニハ黎明時ヲ利用シ第一線兵團ヲ超越マルヲ有利トス

ベク超越後短時間ニテ日没トナリ或ハ夜間超越スルガ如キハ鬼

メテ之ヲ避クルヲ可トセン

蓋シ超越後間モナク日没トナルトキハ多クハ長時間第一線兵

團ノ直後ニ在リテ待機セザルベカラズ從ツテ奇(急)襲ノ效

果ヲ失ヒ易ク而モ待機間敵機ノ空襲ヲ受ケ或ハ敵ノ砲火ニ好

目標ヲ呈スルコトマルベシ且超越ニ於テノ戦果擴張ノ時間少

ク夜間ノ超越ハ動モスレバ第一線兵團ト、砲聲相轟ヲ惹起シ且

超越後敵ノ残存陣地等ヲ攻撃スル場合ニ於テハ相当ノ困難ヲ

ルベシ

(2) 超越ノ時間ハ戦機ニ投合スルヲ要ス第一線兵團ノ獲得セ

ル戦果ヲ機ヲ失セズ有利ニ利用スルノ留意ヲ心懸トセン

(3) 第一線兵團ノ状態ヨリスレバ超越時期ハ状況詳マズ第一線

兵團ノ舞動状態下ニ遷移スルヲ可トスベシ蓋シ第一線兵團ガ  
進軍ニ移行ナル後ニ於テハ戰車師團ノ進路ヲ明瞭セシメ彼此  
部隊ノ混濁ヲ末ニ超越ニ相当ノ困難性アリヲ以テナリ  
又要領

通帯先々向ヲ判明シ第一線兵團ノ直後前進集結シ此、向第一  
線兵團各隊ト所要ノ協定ヲ行ヒ且進路ノ補(改)修 標示等ヲ  
實施シ黎明時ヲ利用シ超越スルヲ適當トセン  
3 部署、超越時ノ地形、險勢及第一線兵團トノ協同ニ関シテハ着  
四向應ニ於テ研察ス

第一 狀況

第一師團長ハ豫メ研察セシ所ニ基キ二十日一四〇〇號紙要旨ノ  
所定進路圖ヲ策定セリ

第三回題 原案

戦車第一師団突進計画ノ概要（其ノ三）  
第三 突破ノ為ノ部署  
別紙ノ如シ

参 考

戦車第一師団進出計画ノ概要（其ノ二）

突破ノ為ニ必要ノ区分（○案ノ編成ニ依リ）

飛行隊

直協飛行第七中隊

捜索隊

師団捜索隊

工兵第四中隊ノ一小隊

患者收容隊第一中隊（三分隊欠）

右方第一隊団

長 戦車第一派団長 某少將

戦車第一隊団（戦車第一聯隊欠）

機油兵第一大隊（第三中隊欠）

野砲兵第一大隊（第二、第三中隊欠）



工兵第五中隊

患者收容第一中隊 (二小隊欠)

中央第一梯團

長 戰車第二聯隊長 某大佐

戰車第二聯隊

機動歩兵第三中隊

野砲兵第二十隊

工兵第六中隊 (一小隊)

患者收容第一中隊 (二分隊)

區處部隊

自司工兵聯隊 (第四、第五、第六中隊欠)

師團通信隊工力

左方梯團

長 戰車第二旅團長 某少將

戰車第二旅團 (戰車第四聯隊欠)

歩兵第二大隊 (第六中隊欠)

野砲兵第三中隊

工兵第六中隊 (一小隊欠)

患者收容第一中隊 (一小隊)

右方第二梯團

長 機動砲兵聯隊長 某大佐

機動砲兵聯隊長 (第一大隊欠)

機動歩兵第六中隊

速射砲大隊

工兵第四中隊 (二小隊欠)

患者第二中隊 (一小隊)

中央第二梯團

長 戰車第四聯隊長 某大佐

戦車第四聯隊

機動歩兵聯隊（第一、第二大隊各）

工兵第四中隊ノ一小隊

區處部隊

師団司令部ノ大部

憲兵第一中隊ノ一小隊

整備隊

師団整備隊

區處部隊

憲兵收容第二中隊

師団輜重

師団輜重兵聯隊

師団衛生隊主力

二、各部隊ノ任務

1. 飛行隊ハ二十日日夜前及二十一日拂曉栃木東北方地區及鬼怒橋以南鬼怒川兩岸地區ノ敵情ヲ偵察シ機甲部隊ノ行動ヲ搜索スルト共ニ二十一日師団ノ戦闘ニ方リテハ指揮任務ニ服シ得ルノ準備ニ在ラシム

2. 搜索隊主力ハ二十日一九〇〇氏家西南端出発氏家一上阿久津一白澤一海道新田（守都宮東東北五軒）道ヲ海道新田南側地區ニ前進シ二十一日先ヅ守都宮南端、雀宮ヲ經テ石橋附近ニ前進シ栃木及小山方向ノ敵情ヲ搜索シ爾後谷田貝附近ニ前進シ下館附近ノ敵情ヲ搜索ス

3. 右方第一梯団主力ハ二十日一九〇〇押上以上鬼怒川ノ線狀發中組一今里一堀米道ヲ堀米一芝原、天王原（舍マズ）道面側地區ニ前進シ二十一日隨所ニ敵ヲ擊破シツシ雀宮、石橋、仁良川（石橋東東南六軒）、大道泉（谷田貝西四軒）道ニ沿フ地區ヲ伊

花山(下館西西南五軒)附近ニ向ヒ前進ス

大中央第一梯団主カハ二十日一九〇〇富野岡ヲ巻シ富野岡一東蘆  
沼一東下ケ橋一白澤西側一海道新田直ヲ海道新田及其ノ北側地  
區ニ前進シ二十一日隨所ニ敵ヲ擊破シツツ守都宮東端一屋板一  
上三川一谷具新田(上三川東南南四軒)直ニ沿フ地区及谷田貝西  
側ヲ經テ下館西側地区ニ向ヒ前進ス

左方梯団主カハ二十日一九〇〇搜索隊出發後陸羽街道ヲモカキ  
と驛、臺岡本、根古屋附近ニ前進シ二十一日隨所ニ敵ヲ擊破シ  
ツツ鬼怒川右岸一東館(上三川東側)一六沼(谷田貝西西北七  
軒)一谷田貝一下館道ニ沿フ地区ヲ下館ニ向ヒ前進ス

右方第二梯団主カハ二十日没後右方梯団ニ統行シ天王原、全  
田附近ノ間ニ前進シ二十一日右方梯団ノ後方一軒ヲ前進ス  
特ニ機ヲ失セズ右方、中央兩第一梯団ノ戰闘ニ協カシ得ルノ準  
備ニ在ラシム

大中央第一梯団主カハ二十日没後中央第一梯団ニ統行シ白澤及  
西下ケ橋附近ノ間ニ前進シ二十一日中央第一梯団ノ後方一軒ヲ  
前進ス

特ニ敵線内交戦ニ向テ側背ヲ警戒セシム  
搜索隊及各梯団ノ二十一日朝前進開始ノ時機ハ〇六〇〇ト豫定  
スルモ別命ス

二十一日突進ノ為各梯団ハ勉メテ縦長ヲ短縮シ且機動力ノ發揮  
ニ努ムルト云ニ連絡ノ確保ニ留意ス

防空隊ハ四二十一日拂曉攻撃準備位置ノ防空ニ任ジタル後中央  
第一梯団及中央第三梯団ノ先頭附近ヲ躍進シ防空ニ任ズ  
通信大隊ハ師団戰闘司令所、左右兩梯団、右方第二及中央第二  
梯団、先進輜重、師団輜重、飛行機、彈司令部間ノ連絡ニ任ズ  
及先進輜重、師団輜重ハ二十一日拂曉迄ニ先進輜重ハ氏家北側附  
近ニ、師団輜重ハ現位置ニ於テ出發準備ヲ整ヘ待機ス

及師團長ハ所要ノ機關ヲ從ヘ中文第一梯團主力ノ先頭ヲ前進ス  
 備考  
 二十日夜間機動ノ為ノ交通統制並ニ突進準備位置ノ細部ニ関シテ  
 ハ別ニ定ム

5	備	空隊	先進輜重	師團輜重	車輛員數ハ概數トス
		長 防空大隊(機動隊第一第二中隊及) 工兵第二中隊(一小隊)	輜重兵隊(各一中隊) 燃料(各隊分)	補給支隊(修理補給各一中隊及) 衛生隊(各一中隊)	
		95	450	850	

區處部隊  
 師團司令部(大部)  
 連者第一中隊(一小隊)

第一師團突進計画ノ概要(其ノ二)別紙

一、突破ノ為メノ部署又補給通信

飛行隊	偵察隊	右方第一梯團	中央第一梯團	左方梯團	右方第二梯團	中央第二梯團	先進輜重		空隊	
							850	450	95	300
飛行隊	偵察隊	<p>長 戰車第一隊隊長 某大佐</p> <p>戰車第一隊(戰車第一聯隊)</p> <p>機動步兵第一隊(第三中隊)</p> <p>野砲兵第一隊(第二第三中隊)</p> <p>工兵大隊(本部、第一中隊、第五中隊)</p> <p>(一小隊)</p> <p>通信第一中隊(第一、第三、第四中隊)</p>	<p>長 戰車第二聯隊長 某中佐</p> <p>戰車第二聯隊</p> <p>機動步兵第三中隊</p> <p>野砲兵第二中隊(一小隊)</p> <p>工兵第二中隊(二小隊)</p> <p>通信第一中隊(二小隊)</p> <p>區處部隊</p> <p>通信大隊 主力</p>	<p>長 戰車第四聯隊長 某中佐</p> <p>戰車第四聯隊</p> <p>機動步兵第四隊(第一第二大隊)</p> <p>野砲兵第三中隊</p> <p>工兵第三中隊(一小隊)</p> <p>通信第一中隊(一小隊)</p> <p>區處部隊</p> <p>師團司令部 大部</p> <p>通信第一中隊(一小隊)</p>	<p>長 砲兵聯隊長 某大佐</p> <p>砲兵聯隊(第一大隊)</p> <p>機動步兵第六中隊</p> <p>通信大隊(第三中隊)</p> <p>工兵第四中隊(一小隊)</p> <p>通信第二中隊(一小隊)</p>	<p>長 砲兵聯隊長 某大佐</p> <p>砲兵聯隊(第一大隊)</p> <p>機動步兵第六中隊</p> <p>通信大隊(第三中隊)</p> <p>工兵第四中隊(一小隊)</p> <p>通信第二中隊(一小隊)</p>	<p>長 砲兵聯隊長 某大佐</p> <p>砲兵聯隊(第一大隊)</p> <p>機動步兵第六中隊</p> <p>通信大隊(第三中隊)</p> <p>工兵第四中隊(一小隊)</p> <p>通信第二中隊(一小隊)</p>	<p>長 砲兵聯隊長 某大佐</p> <p>砲兵聯隊(第一大隊)</p> <p>機動步兵第六中隊</p> <p>通信大隊(第三中隊)</p> <p>工兵第四中隊(一小隊)</p> <p>通信第二中隊(一小隊)</p>	<p>長 砲兵聯隊長 某大佐</p> <p>砲兵聯隊(第一大隊)</p> <p>機動步兵第六中隊</p> <p>通信大隊(第三中隊)</p> <p>工兵第四中隊(一小隊)</p> <p>通信第二中隊(一小隊)</p>	<p>長 砲兵聯隊長 某大佐</p> <p>砲兵聯隊(第一大隊)</p> <p>機動步兵第六中隊</p> <p>通信大隊(第三中隊)</p> <p>工兵第四中隊(一小隊)</p> <p>通信第二中隊(一小隊)</p>
補給	通信	<p>各部隊へ攻撃前進スルニ 方リ各車滿量トスル他携行 定量ヲ携行スルモノト又車輛 之ヲ許セ、増加携行ス</p>	<p>一、糧料</p>	<p>二、糧食</p> <p>師團ノ第一線兵団超越突進時 ニ携行定量ノ外各車二分 ヲ増加携行ス</p>	<p>三、車輛ノ整備</p> <p>各隊攻撃準備位置ニ就テ ル後攻撃前進スルニ向ニ於テ 後、整備ヲ完了ス</p> <p>之カヲ前線兵團修理大隊 ハ所要ニ応ジ各部隊ノ整備ヲ 援助ス</p>	<p>四、通信</p> <p>通信大隊ハ二月二十日夜半迄 ニ攻撃準備位置ニ於ケル 通信網ヲ完故ス</p> <p>攻撃前進途ハ無線通信ハ 禁止ス</p>				

飛行隊	偵察隊	右方第一梯団	中央第一梯団	左方梯団	右方第二梯団	中央第二梯団	空隊	先進輜重	師団輜重	備
直揚飛行隊 長 櫻井大佐 搜索大隊 工兵第四中隊、一小隊 憲兵第一中隊、一小隊 (二分隊欠)	長 櫻井大佐 搜索大隊 工兵第四中隊、一小隊 憲兵第一中隊、一小隊 (二分隊欠)	長 戰車第一旅団長 某大佐 戰車第二聯隊 機動歩兵第三中隊 野砲兵第二中隊、一小隊 工兵第二中隊、一小隊 決着第一中隊、二分隊 巴剎部隊 通信大隊 主力	長 砲兵聯隊長 某大佐 砲兵大隊 (第一大隊欠) 機動歩兵第六中隊 工兵第四中隊 (一小隊欠) 憲兵第二中隊、一小隊	長 戰車第二旅団長 某大佐 戰車第二聯隊 (戰車第四聯隊欠) 歩兵第二大隊 (第六中隊欠) 機動砲兵第二中隊 (一小隊欠) 野砲兵第三中隊 工兵第三中隊 憲兵第一中隊、一小隊	長 戰車第四聯隊長 某中佐 戰車第四聯隊 機動歩兵聯隊 (第一大隊欠) 機動砲兵第三中隊 工兵第二中隊、一小隊 巴剎部隊 師団司令部、大部 憲兵第一中隊、一小隊	長 砲兵聯隊長 某大佐 砲兵大隊 (第一大隊欠) 機動歩兵第六中隊 工兵第四中隊 (一小隊欠) 憲兵第二中隊、一小隊	長 防空大隊長 某中佐 防空大隊 (機動砲兵第一、第二中隊欠) 工兵第二中隊、一小隊	榴彈兵聯隊、各一中隊 憲兵第二中隊 燃料 (各隊分)	補給及修理 (修理補給各一中隊欠) 衛生隊、主力 各隊運送行李	車輛員数ハ概数トス
	150	480	230	410	245	300	95	450	850	
燃料 各部隊ハ攻撃前進スルニ 方リ各車満量トスル他携行 定量ヲ携行スルモノトス車輜 之ヲ前送ハ増力携行ス	糧食 師団、第一線兵団諸隊、交通時 云携行定量ノ外各車二日分 ヲ携行ス	三、車輛ノ整備 各部隊等準備位置ニ就キ夕 ル後攻撃前進スルニ向ニ各 機、整備ヲ完了スルヲ最 之方、車輛、整備、修理、大 ハ所定ニ応ジ各部隊ノ整備ヲ 後助ス	四、通信大隊ハ二十日夜半迄 ニ攻撃準備位置ニ於ケル 通信網ヲ完結ス 攻撃前進迄ハ無線通信ハ 禁止ス							

裏面白紙

第三狀志

師團長ハ進計画ヲ決定スルノ關係兵団トノ連絡協定ニ関シ概要左  
ノ如ク処置セリ

一 八幡山一守都宮北側ノ北側高地第ニ師團戰鬥司令所ニ派遣シアリ

二 甲斐隊ヲシテ第ニ師團及同方面軍砲兵隊トノ連絡協定ヲ行ハシム

三 乙斐隊ヲ速カニ第四師團方面ニ派遣シ第四師團及同方面軍砲兵隊  
トノ連絡協定ニ任セシム

四 師團長以下各部隊長ハ後刻敵情地取偵察ノ際各々各關係部隊長ト  
連絡ヲ行フト共ニ所要ノ協定ヲ補足ス

五 砲力飛行機ヨリ戰車師團司令所ニ派遣セラレアル連絡者ト連絡協  
定ス

六 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

七 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

八 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

九 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十一 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十二 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十三 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十四 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十五 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十六 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十七 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十八 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

十九 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

二十 兵站部隊等其ノ他ノ關係兵団トハ適宜連絡協定ス

狀況第三說明事項

- 協定ノ爲ノ主要事項者ノ如シ
- 一 夜間變動及休後ノ突進ノ爲ノ交通整理ニ就テ
  - 二 戦車師団ノ突破ニ對スル一級兵団ノ支援ニ就テ
  - 三 關係兵団トノ情報交換ニ就テ
  - 四 關係兵団トノ連絡ニ就テ



第四狀况

甲、乙參謀其、他連絡協定ヲ命ゼラレタル諸官ハ二十日夜ノ變動及  
尔後ノ突進ノ爲交通整理、交收支援、情報交換及通信連絡等ニ関シ  
關係兵団ト概ネ右記事項ヲ連絡協定セリ

乙 記

一、夜間發動及攻奥準備ニ就テ(二十日夜)

一、戰車師團夜間機動ノ爲、前進部署隊長徑等ノ概要通報

二、戰車師團各梯團ノ前進路ノ優先使用ノ件協定

三、二十日夜ノ集結地区開放ノ件協定

四、戰車師團突入途ノ行動ニ就テ(二十一日朝)

一、戰車師團挺進部署ノ概要及其ノ隊勢ノ概要通報

二、戰車師團ノ友軍並ニ敵兵同起趣符ニ砲兵陣地ト突入地域及其ノ

隊形等ニ関スル件協定

三、戰車師團ノ友軍起趣地区ニ於ケル通信線ノ保護符ニ戰車師團ノ

前進地区ニ於ケル通信線ノ埋設ニ関スル件要求

又友軍第一線ノ標示ニ関スル件要求

又敵ノ制圧ニ関スル件協定

三、突入及退却ノ突進ニ就テ（二、十一日）

又友軍退却（攻重）ノ腹案通報

又第一線兵隊ノ攻重ノ腹案承知

又突入及突進支援ノ協関係各兵隊へ發行團、軍務安隊、第二、第一

四師團砲兵隊等ノ任務分擔、使用兵力、目標配當等ニ関スル

件協定

又砲兵ノ突入及突進間翼側掩護ノ火力登揚並ニ煙幕展開時期及地

点等ノ關係ニ就テ協定

又協力飛行團ノ行動ノ結果承知

又敵軍師團友軍第一線超越時爲シ得ル限り第一線部隊ノ要求ニ応

ジ致ラ制圧突進スベキ件通報

又第一線兵隊ニ對シ証憑ニ戰車師團ノ戦果ヲ利用振張セラレ度件  
協定

又戰車師團ノ協方隊内ノ前進ヲ援助セラレ度件協定

四、情報交換ニ就テ

又敵ノ状況ニ関スル情報ノ交換符ニ陣後ニ於ケル敵情ニ関シ符ニ

関スル兵隊配屬直協隊行數ノ得タル情報ノ通報等ニ関スル件ノ要求

件協定

五、通信連絡

又第一線兵隊トノ通信連絡ノ協定

又發行團トノ空地連絡ニ関スル細部事項ノ協定

研究ノ説明事項

一、夜間機動及夜後ノ突進ノ為ノ交通整理ニ就テ  
ハ機甲兵団ノ攻勢準備ニ於テ特ニ注意スベクハ機動進路ノ補修及  
交通整理ノ事前準備ナリ此ノコトタル國ヨリ兵団ヲ運用スベク  
高級指揮官亦管掌スベシト雖モ兵団ニ於テハ特ニ周到ナル考慮  
ヲ拂ヒ之ガ準備ヲ完整スルニト心要ナリ

参考

一、軍西方第一期作戰ニ於テ、クライスト軍ハ機動ヲ圖得テラシ、  
ハルル處ニ四條ノ專用路ニ付シ道路司令官ヲ任命シ之ニ交通整  
理部隊、憲兵及政隊軍需引部隊等ヲ配属シ此等部隊ハ其ノ專  
用路ニ配属セラレタリ  
其ノ任務ハノ如シ  
（一）專用路ヲクライスト軍以外ノ軍隊ニ使用セシメザレコト  
（二）一ヲ交通ノミニ整理ス一博令及衛生機關ヲ除ク

(一) 横断行進交又ヲ規正ス

(二) 監視哨ヲ配置シ通過部隊ニ前進方向ヲ指示シ之ヲ援助セシム

(三) 敵機ニ依ル橋梁等ノ破壊ニ對シ迂回路ヲ構築ス  
(四) 故障車ノ排除牽引

但シ通過部隊自體ニテ屬シ得ルモノヲ除ク  
又同軍ハ交通統制ヲ兵團ニ区分配置シ「ライ」川以東ノ地区ハ

通過スベキ各師團ノ任務トセリ  
右ノ如キ「ク」ライスト軍ノ周知ナレ交通ニ閉スレ處理ハ頗ル好

果テ收メタリト謂フ以テ教訓トスルニ足レベシ  
又據ツテ本狀況ヲ思ヘ第一線兵團ノ後方ハ補給機關(糧食、兵

站諸部隊等)其ノ他ノ部隊ノ爲第一線兵團ニ近クニ從ヒ各種ノ  
部隊ヲ砲兵部隊等ノ急進路ハ常ニ閉塞或ハ破壊セラレ路外ト  
稱モ亦閉塞セラレ各種部隊ノ混濁、混雜シアルノ状態ハ想像ニ

殆カラス從ツテ兵團トシテ機動進路ノ補修、攻取準備放棄ノ開  
放及交通整理ノ事前準備ニ関シ如何ニ処置スベキヤ察ク研究ス  
ルノ要アルト夫ニ關係兵團トノ協定、連絡ヲ固密ニシ關係兵團  
ノ下級部隊迄之ヲ徹底ビシメザレバ師團ノ機動ヲ阻礙、迅速ナ  
ラシメ得ザルノミナラズ或ハ大ナル錯誤ヲ生ジ遂ニ戦機ヲ失ス  
ルニ至ルコトアルベシ

第七 狀 況

一 搜索隊ハ二十一日〇大〇〇前進開始ヲ命ゼラレ守都宮附近一帯ニ  
及マタル被襲ノ砲声ヲ聞キツツ所命ノ進路ヲ前進ス

搜索隊長ハ本隊ノ先頭ニ在リテ〇大三〇守都宮南端（陸羽街道）

ニ達シタルハ本隊ニ師團一部ハ江會島附近ニ進出シ臺新田附近

ニ在リ敵ヲ攻撃セラルヲ知リ部隊ヲ江會島北側ニ集結シ命ジ且附

近ノ攻撃部隊ト連絡ス

二 搜索隊長ハ江會島北端ニ在リテ七時稍々前迄ニ第一師團及在江會

島北端本隊大隊隊長ノ通報並ニ自己ノ目撃等ニ依リ左ノ狀況ヲ

知ル

一 第七師團ハ本朝未一部ヲ以テ西川田西南側地区ヨリ幕田附近ノ

敵ヲ攻撃セリ

師團主力ハ其ノ西北上欠下附近ニ於テ激戦中ナルが如キモ明カ

ナラズ

又第二師團ハ二十日夜宇野宮市街ヲ利用シ頑強ニ抵抗セル敵ヲ夜襲シ其ノ主力ノ第一線ハ本博愛寺都宮南端ニ進出シ隊勢ヲ整理中ナリ

歩兵第六聯隊(第三大隊々々)ハ目下江會島及同地東側ニ進出シ臺新田西側ヨリ臺新田ヨリ經テ上横田西北側ニ互リ陣地ヲ占領セリ砲臺門ヲ有スル狙撃一、二大隊ノ敵ニ對シ攻撃準備中ナリ

第二師團ノ砲兵ノ一部ハ宇都宮西南側工業学校附近ニ進出シ臺新田ノ敵ヲ射撃中ナリ

第三師團當面ノ敵主ウハ昨二十日夜半以後石橋方向ニ後退セルカ如シ

3 第四師團方面ノ状況詳ナラズ  
\*敵機甲大隊隊ハ栃木ヨリ舊例幣使街道―羽生田邊 栃木―士生道、栃木 小金井道ヲ前進中ニシテ口六四口前後各從隊ノ先頭ハ概ス羽生田江迄 小金井附近ニ退ケリ(第一師團直務長行隊通報)

今戦車師團ノ各隊團ハ口六四口前後百機内外ノ敵機ノ空襲ヲ受ケテ出發時々退却シ口六三ロ頃所命ノ如ク前進ヲ開始セリ

第 五 問 題

七時ニ於ケル搜索隊長ノ決心及処置

第八號

搜索隊長ハ第ニ状況ニ基キ羽生田方ヨリ前進中ノ敵機甲部隊ノ交  
川左岸進歩ヲ妨害スルニ決シテ如ク処置ス

一 搜索隊至右ハ直ニニ岩登攻火ノ目的ヲ以テ江曾島西側、兵庫塚ヲ  
経テ上坪ニ向ヒ前進ス

二 一部ハ敵機車一小隊、乗車一小隊ハ直ニニ岩登江曾島西側、兵  
庫塚方面ヲ経テ雀宮南端附近ニ前進馬車ヲ占領シテ右橋方ヨリ  
前進スル敵機甲部隊ノ前進ヲ遅滞セシムルト共ニ当面ノ敵情ヲ搜  
索ス

三 決心及処置ノ大要ヲ師團長ニ報告右方第一梯団、歩兵第六隊、  
在幕田第七師団砲兵隊ニ通報



第 九 状 況

二十日夜ニ於ケル戦車第一師団ノ夜間機動ハ友軍後方部隊ノ交通妨害ニ依リ前送運送シ二十一日口五〇〇頃ニ至リ辛ジテ全カノ集結ヲ終リ概ネ突進準備ニ支障ナキヲ得タリ

戦車第一師団長ハ所要ノ機関ヲ從ヘ八幡山ニ先行シ第一師団長ト會シ協力ヲ謝シ彼我ノ狀況ヲ觀察シ左ノ狀況ヲ知リ〇六〇〇豫定ノ進路ヲ命ズ

第一師団ハ昨二十日夜守都宮市街ヲ利用シ積聚ニ抵抗セザル敵ノ攻撃シテ本二十一日拂曉概ネ守都宮南端ニ進出セリ

守都宮市街ハ所々ニ火災ヨ生セルモ戦車師団ノ前進ニ支障ナキカ如シ

第四師団ハ本二十一日拂曉概ネ高等農林学校 志怒橋道ノ線ニ進出セルカ如シ

本拂曉守都宮西南方ニ増盛ナル砲声ヲ悉ク悉ラフ第七師団隊

我中ナルモノト判断セラル

三各分団ハ連襲ノ命ニ依リ勇躍攻進前進ヨ前給セントスルヤ俄然砲  
撃ヲ衝ヒテ百機内外ノ戦、爆連合ノ敵ノ飛行機機が上空ニ飛来シ  
、猛烈ナル爆撃ヲ加フ恰モ我が上空急襲由ナリミ戦艦隊ハ之ノ壯烈  
ナル空中戦ヲ交ヘ我が戦艦隊、巧妙ナル攻撃ト高射砲、適切ナル  
射撃トニ依リ交戦十数分ニシテ敵、大半ヲ撃墜セシモ残餘ハ遺憾  
ナカラ環雲ノ彼方ニ逃走セリ

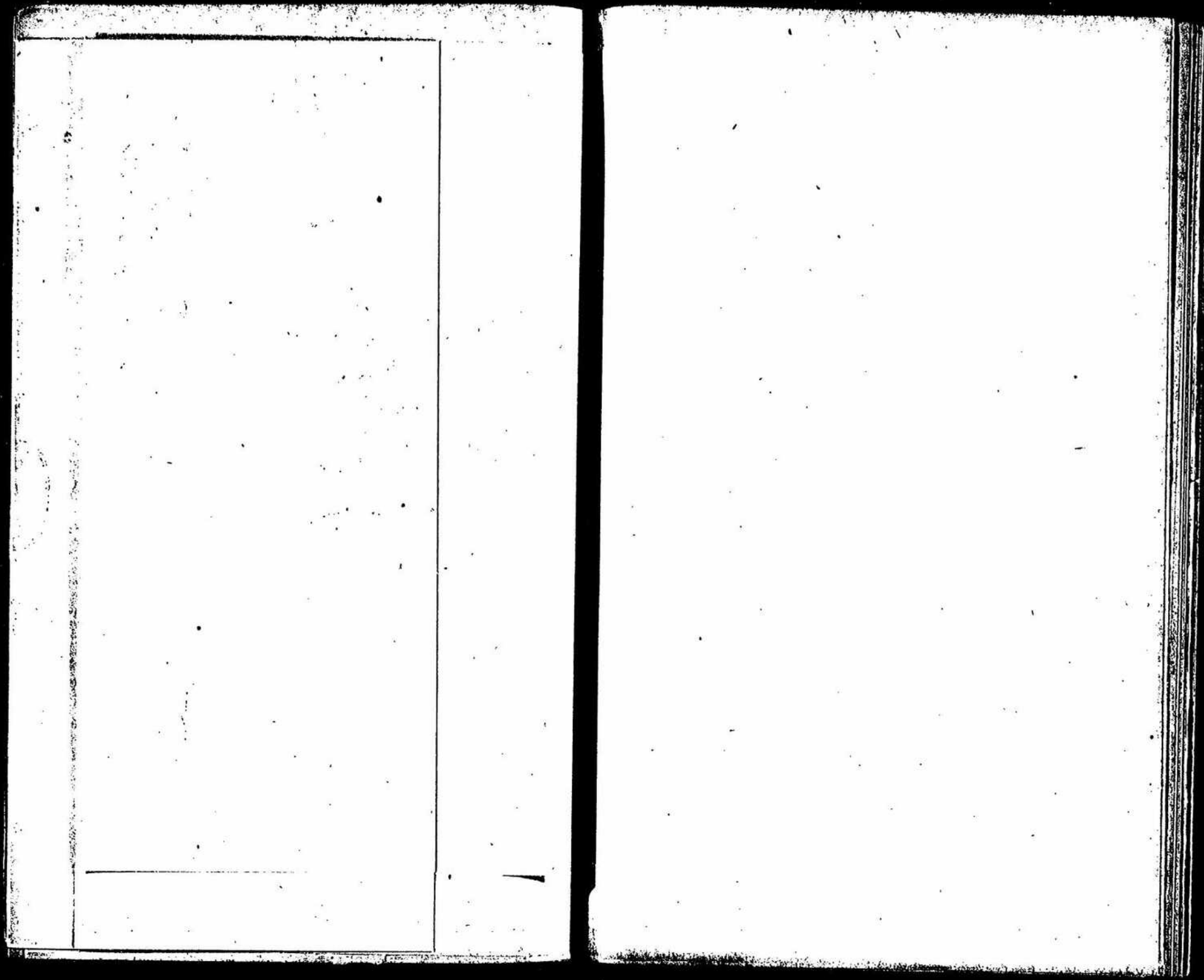
本空襲ニ依リ我が戦車師団ノ出発ハ搜索隊ヲ除ク他相当混雑セリ  
然レドモ幸ニ其ノ損害ハ輕微ナリ

四期ヲテ搜索隊ハ豫定ノ如ク六〇〇ヲ前進ヲ開始シ次ヲ各隊団ハ  
六三〇頃戦艦ニ暴舞スル空ノ精銳ニ掩護セラレツツ堂々ノ陣形ヲ  
以テ前進ヲ開始セリ其ノ轟々タル響ハ將ニ戦場ヲ壓倒ス

五師団長ハ諸隊前進開始ノ報ニ接スルヤ第一師団長ト堅キ握手ヲ交  
ハシ市街ニ充滿セル友軍部隊四ヲ突破シ中央第一師団主ク、未頭

二聯隊ミ〇七一〇守部宮南側ニ進ス

同時遂ニ師団長ハ相次テ諸情報ニ接ス其ノ状況附圖ノ如シ

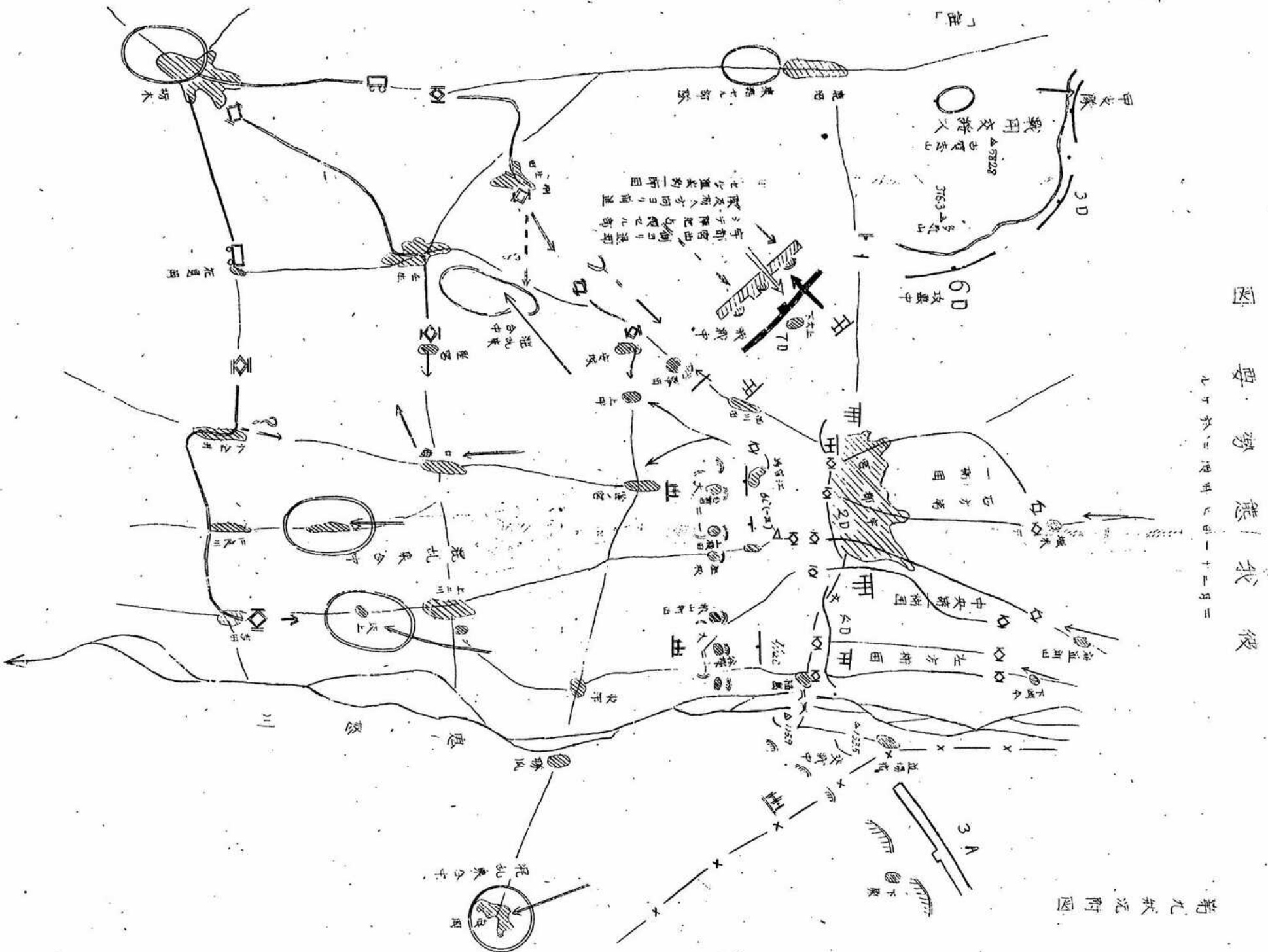


1 : 3 2



↑ 北  
10方

- 一 2D 如主力ハ部隊ヲ整理中ニシテ商談、前進開始、爲ニ八時間ヲ要スルモ、如ク
- 一部ハ各營回、敵ニ対シテ固ク加ク攻撃準備中ナリ
- 二 以テハ機甲部隊トス



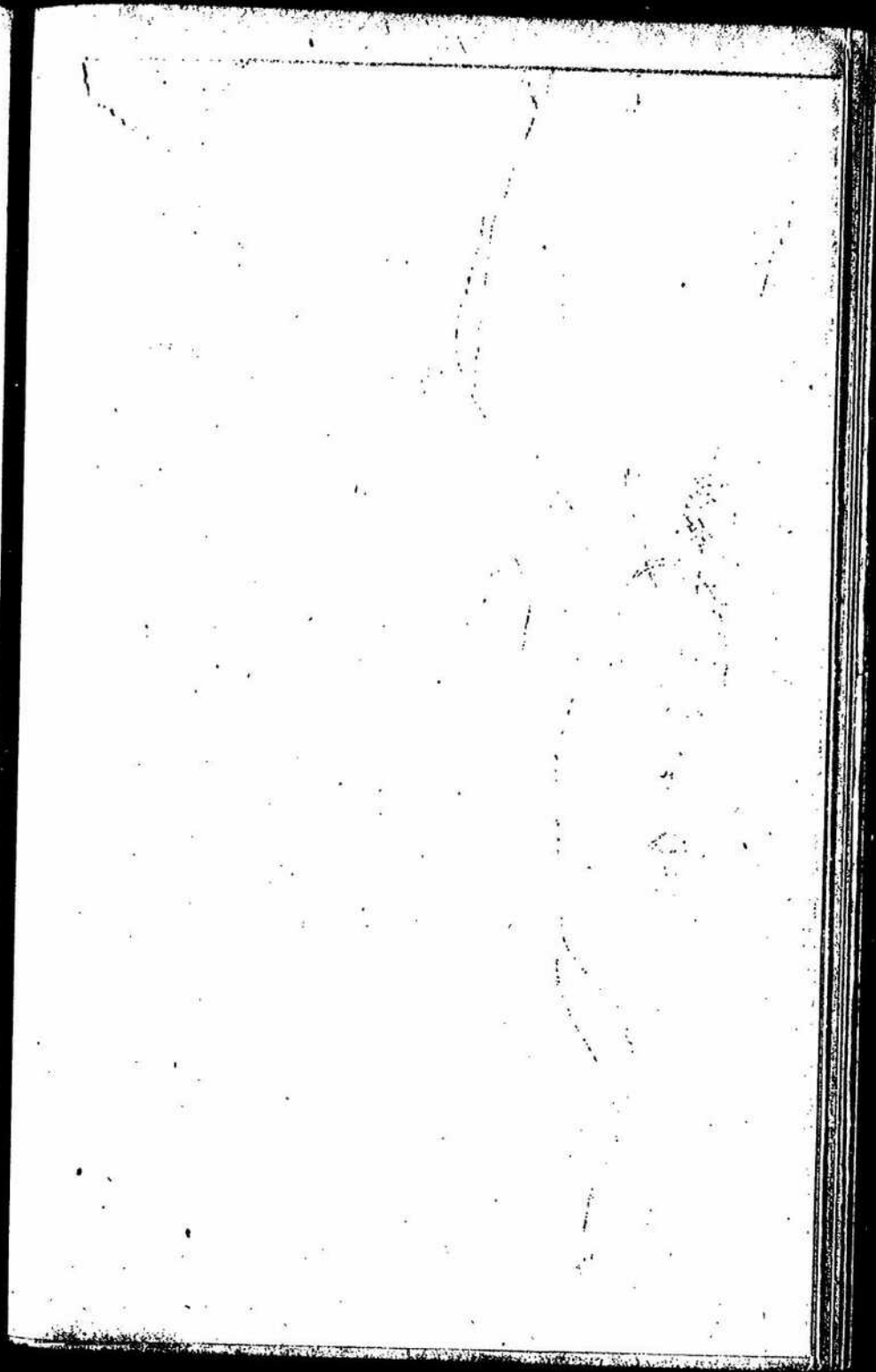
第九戦況附圖  
九月十一日午後三時

裏面白紙

1 : 25



第六問題  
七時十分ニ於ケル戦車第一師団長ノ決心（決心ノミ）



第六、第七問題主要研究事項

- 一、主決戰方面
- 二、戰闘部署
- 三、諸兵就中歩、砲、工兵ノ用法  
歩、戰分難力  
歩、戰縮合力
- 四、予備隊ノ兵力及使用目的
- 五、展開及戰闘加入ノ要領  
展開時期
- 六、戰闘加入要領及展開法  
對戰車戰闘支撐兵ノ價值
- 七、戰車大部隊相互ノ戰闘推移ニ關スル予想

第十 狀況

戰軍第一師團長ハ第九狀況附圖ノ如ク彼我ノ狀況ヲ知リ直ケニ當面ニ残存スル敵陣ヲ突破シ枋木方向ヨリ前赴中ノ敵機甲部隊ヲ攻撃スルニ決セリ

第七 問題

敵機甲部隊ニ對スル戰車第一師團攻撃指導要領

(要図答解 五万分ノ一)

戦車第一師団長ノ師団主力ヲ以テ速カニ陸羽街道両側地區ヲ前進シ  
名新田附近ノ敵線ヲ突破シタル後先ヅ羽生田方向ヨリ前進中ノ敵機  
甲部隊ヲ各砲ニ撃破シ続イテ石橋方向ニ突進シ隨所ニ敵機甲部隊ヲ  
撃滅スル企圖ノ下ニ〇七ニ〇頃ヨリ逐次九記要旨ノ各別命令ヲ下達  
スルト共ニ協力兵団ニ所要ノ要請並ニ連絡ヲ実施ス

九 記

一師団各部隊ニ對スル命令ノ要旨  
ノ搜索隊ハ安塚方向ヨリ前進スル敵機甲部隊ノ空川右岸進出ヲ  
妨害ス

又石方第一梯団長ハ中央第一隊団ヲ併セ指揮シ第二師団ノ一部ト  
協力シテ速クニ名新田附近ノ敵陣地ヲ突破シテ先ヅ羽生田方向  
ヨリ前進中ノ敵機甲部隊ヲ撃破シ爾後陸羽街道及其ノ西側地區  
ヲ石橋方向ニ前進シ隨所ニ敵機甲部隊ヲ撃滅ス



自今右翼隊トス

3. 中央第一梯団ハ速カニ右方第一梯団長ノ指揮ニ入ラシム

但シ通信ノ機主カハ本村ニ残置シ師団長ノ直轄タラシム

4. 左方梯団ハ第四師団ノ一部ト協カシテ速カニ谷地下附近ノ敵陣ヲ突破シタル後田川九岸地区ヲ上三川方向ニ前進シ墮所ニ敵機甲部隊ヲ撃滅ス

自今左翼隊トス  
5. 砲兵隊(第一大隊、工兵第二中隊(二小隊各)編)ハ右翼隊ノ後方ヲ躍進シテ

右方第一梯団ノ諸隊ハ右方第一梯団長ノ指揮ヲ脱レ建射砲大隊

6. 防空隊ハ主トシテ右翼隊ノ後方ニ配置シ前進スベシ

7. 飛行隊ハ主トシテ指揮任務ニ服ス

8. 先進輜重ハ比家一上阿久津一白草一海邊新田一守御宮道ヲ守御

宮東北側ニ向ヒ前進ス

9. 師団司令部ハ先進輜重ノ後方ヲ海邊新田ニ向ヒ前進ス

獨逸兵団ニ戰車師団ノ攻撃指導要領ノ概要ヲ通報スルト共ニ手入

協定セルトコトニ基キ尤ノ如ク處置ス

1. 飛行隊ニ敵機甲部隊ノ襲撃ヲ要求ス

2. 軍砲兵隊ニ戰車師団ノ左側ニ對シ鬼怒川九岸ヨリスル敵ノ妨害ニ對シ煙幕構成ヲ要求ス

3. 第二、第四師団ニ對シ戰車師団兩翼隊ヘノ協カヲ要請ス、細

師ハ西翼隊長ニ於テ關係各部隊ト協定セシム

4. 第七師団ニハ攻撃指導要領ノ概要ヲ通報ス

5. 師団長ハ陸羽街道ニ沿ヒ右翼隊ノ後方ヲ躍進ス

第六、第七問題主要研究事項

- 一、主決戰方面
- 二、戰鬪部署
- 三、諸兵就中步、砲、工兵ノ用法  
    歩、戰分難力  
    歩、戰編合力
- 四、予備隊ノ兵力及使用目的
- 五、展開及戰鬪加入ノ要領  
    展開時期  
    及戰鬪加入要領及展開法
- 六、對戰車戰鬪支撐矣ノ價値
- 七、戰車大部隊相互ノ戰鬪推移ニ關スル予想

第六、第七問題研究説明事項

一、戦車師団ノ機動ヨリ戦闘ヘノ転移及展開

此ノ種兵団ノ特性上機動ヨリ戦闘ヘノ転移ハ諸兵ノ戦闘力ヲ總

合發揮シ而モ急襲ノ刻ヲ失ハサルヲ要訣トス

「参考」

独軍戦車師団ノ諸戦例ニ就キ之ヲ觀ルニ概シテ急襲ヲ主トシ

諸兵逐次加入ノ方式ヲ採レル色彩濃厚ナリ然レ共其ノ原則ト

スル所ハ依然急襲ト共ニ組織的戦力ノ發揮ニ在リ之ノ相反ス

ル要求ヲ有スル而要件ノ調和ハ一ニ統帥ノ卓越(特ニ高級指

揮官ノ機眼ノ養成)各部隊指揮官ノ戰術的指揮能力ノ優秀及

部隊ノ展開行動ノ軽捷性ニ俟ツベキモノナリ

独軍戦車師団ノ展開ノ指導ニ於テ特ニ特色トシテ強調スベキ

ハ神速輕捷ニシテ最モ至短時間ニ之ヲ完了シ以テ機甲急襲ノ

利ヲ收メントシツツアル莫ナリ、即チ縱長短縮、分進展開ノ

行動ハ敏活且指揮官ノ簡潔ナル發線命令ニ依リ神速ニ実行セラル

又之ガ爲指揮官ノ前方占位ヲ高調シ師団長ハ警戒隊ノ先頭ニ進出スルヲ本則トシアリ

之攻撃準備

戦車師団ノ展開ハ奇襲ノ目的ヲ達成スル爲勉メテ之ガ鈍重ナル行動ヲ戒メ其ノ段階ヲ減少スルニ勉ムルヲ要ス  
之ガ爲爲シ得レバ機動間ニ於テ行軍縱長ヲ短縮シ此ノ間道時神給ヲ完了シ直テニ攻撃準備位置ニ進入シ次第速カニ展開ヲ完了スル如ク指導スルヲ有利トセン

即チ師団ノ主体タル戦車ノ攻撃準備要領ニ於テ原則トシテ開進待機位置、出発位置進入ノ三段階ヲ經過セシムルハ師団ノ攻撃準備ヲシテ着シク鈍重ナラシメ急襲ノ利ヲ失フノ虞アルベシ  
二 對機甲戰闘  
兵團敵ノ機甲師団ヲ攻撃スルニ方リテハ速カニ敵性ヲ明カニシ主

求メテ之ヲ擊滅スルヲ要ス此ノ際勉メテ敵ノ意表ニ出ヅ不利ナル態勢ニ乘ズルノ著意ヲ必要トス之ガ爲各種ノ手段ヲ盡シ敵ノ態勢ヲ惑亂シ以テ其ノ優勢ヲ發揮シ得ザラシムルヲ有利トス又對戦車兵器ノ適切ナル配置ニ依リ敵戦車ヲ撲滅スルト共ニ機ヲ失セズ砲兵ヲシテ射撃ヲ開始セシメ其ノ猛烈ナル火力ニ依リ速カニ敵戦車ヲ阻止シ或ハ乘車部隊ヲ制圧シ遠距離ヨリ徒歩セシムルノ著意ヲ必要トス(機甲兵団指揮ノ参考第百一一)

「参考」

主トシテ西方第一期突破作戦間ニ發生セル独軍戦車師団ノ對機甲戰 闘勝利ノ原因ヲ探究セバ概ネ左ノ諸点ニ歸結ス  
一 戦車兵力ノ集結統一使用ニ依ル各個擊破ノ遂行  
二 戦車部隊ノ優越セル火力戰ノ遂行  
三 戦車部隊ノ神速ナル進出、側方機動ニ依ル態勢ノ優越ヲ包

各隊甲裝軌化セル歩兵団、砲兵及對戰車砲並ニ工兵部隊ノ密接ナル協同

5、各隊指揮官ノ前方占位ニ依ル指揮ノ敏活ト各部隊ノ判断以上ノ諸件ハ師団長ノ戰闘上特ニ考慮スベキ要項ナルト觀察セラルル又之ニ反シ佛軍戰車部隊カ右要件ヲ缺ガテ隨所ニ擊破セラレタリ特ニ戰車ノ歩兵分隊ニ依リ分散使用ノ弊ニ陥リ徒ラニ退嬰委縮鈍重ナル行動ト砲兵的戰法ニ墮レテ破レタルハ注意ヲ要スル所ナリ

三、指揮官ノ位置

兵団指揮ノ特性ニ鑑ミ指揮官ハ戰闘ノ初期ニ在リテハ最先端ニ位置シ自ラ狀況ヲ觀察レテ適時適切ナル部署ヲ爲シ戰闘ノ進捗ニ伴ヒ其ノ焦點ニ位置シ變転極リナキ戰況ニ即應ジ的確ニ戰闘ヲ指導スルト共ニ軍隊ノ志氣ヲ鼓舞スルコトヲ兼受ナリ(戰甲兵団指揮ノ參考、第八十五)

參考

(一) 師団戰闘司令所ノ前方占位

師団長ハ原則トシテ機動間警戒隊ノ先頭ニ在リテ逐次前進シ來ル部下諸隊ヲ指揮シ戰闘開始セラルルヤ戰闘ノ焦點(攻撃重點)タル第一線ニ位置レテ之ヲ指揮ス

即チ師団長ハ一般ニ前方ヨリ後方ニ向ヒテ指揮セリ

西方第一期作戰ニ於テ「グーリアン」軍団ノ戰車師団ガ國境突破ノ爲採リタル部署ノ一例尤ノ如シ

戰車師団ノ攻撃部署

(一) 驅逐警戒部隊  
果敢ナル奇襲ニ依リ敵國境警戒部隊ヲ擊破シ障礙ヲ除去シ且警戒ヲ不能ナラシム又諸術工物ヲ敵ノ破壞スルニ先ダテ之ヲ占領ス

(二) 攻撃部隊(歩、工、砲兵ヨリ成ル)  
偵察隊

之主力 敵ノ防禦施設ノ中間ヲ突破シ側方ヨリ攻撃ス

(三) 襲撃部隊(歩、工、砲兵ヨリ成ル)

敵ヲ正面ヨリ攻撃シテ陣地ヲ奪取ス

(四) 師団主力

ノ装甲偵察部隊

ニ戦車旅団

ヲ附録シ、歩、砲其ノ他ノ部隊

攻撃部隊及襲撃部隊ノ後方ヲ前進シテ敵ヲ突破ス

(五) 戦闘司令所ハ前方ニ極度ニ挺進シ師団長ノ迅速ナル決断ニ依リ  
部隊ヲ後方ニ向山指揮ス

### 第八問題

右翼隊攻撃戦術指導要領

(要図解答 五万分ノ一)

第十三状況

右方第一師團長ハ第十一、第十二状況ニ基キ歩兵第三旅団ト協カシテ  
テ速カニ新田附近ノ敵陣地ヲ突破シ先ツ羽生田方向ヨリ前進中ノ  
敵機甲部隊ヲ撃破シ尔後陸羽街道及其ノ両側地区ヲ石鶴方向ニ前進  
シ陣所ニ敵機甲部隊ヲ撃滅スルニ決シ概要尤ノ如ク慮置ス

一、右第一線(戦車第二旅団)歩兵第一大隊(第三中隊欠)ハ(西  
川田東北側)江曾島ノ線ニ展開シ歩兵第六旅団ト密ニ協同シテ台  
新田附近ノ敵ノ左翼ヲ包圍スル如ク攻撃シ速カニ当面ノ敵陣ヲ突  
破シタル後石川(雀宮西南)一帯五百ノ方向へ前進シテ敵機甲部隊  
ヲ攻撃

台新田附近ノ敵陣突破ニ際シ一部ヲ以テ雀宮南端ヲ占領シ石翼隊  
ノ敵機甲部隊攻撃ノ支援ヲラシム

二、北第一線(戦車第二旅団)第四中隊欠、歩兵第三中隊、工兵第二  
中隊(二小隊欠)ハ江曾島東側——大城内ノ線ニ展開シ歩兵第六

- 一 聯軍ト協同シテ台新田附近ノ敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 二 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 三 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 四 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 五 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 六 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 七 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 八 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 九 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ
- 十 敵陣ヲ突破シテ台新田附近ノ

一 歩兵第六聯隊ト台新田附近ノ敵陣突破ノ協同ニ関シ協定  
 二 第一師團砲兵隊ニ敵陣突入ニ伴フ砲兵ノ射定延伸ノ件協定  
 三 八師團長ニ決心及處置ノ機要ノ報告並ニ捜索隊ニ通報



第十四状況

一 搜索隊ハ前研究ノ如ク〇七〇〇過江曾島北側出發主カハ江曾島西南地區ニ於テ小數ノ敵ヲ撃破シ上坪ニ向ヒ前進中兵庫塚北側ニ於テテ敵輜ノ敵戰車部隊ト遭遇シテ之ヲ驅逐シ〇七三〇頃上坪ニ達シテ安塚附近ニ進出セル敵ノ前進ヲ拒止シ且尔候ヲ以テ石橋方向ノ敵情ヲ搜索ス

一部ハ〇七二〇頃雀宮ヲ占領セリ

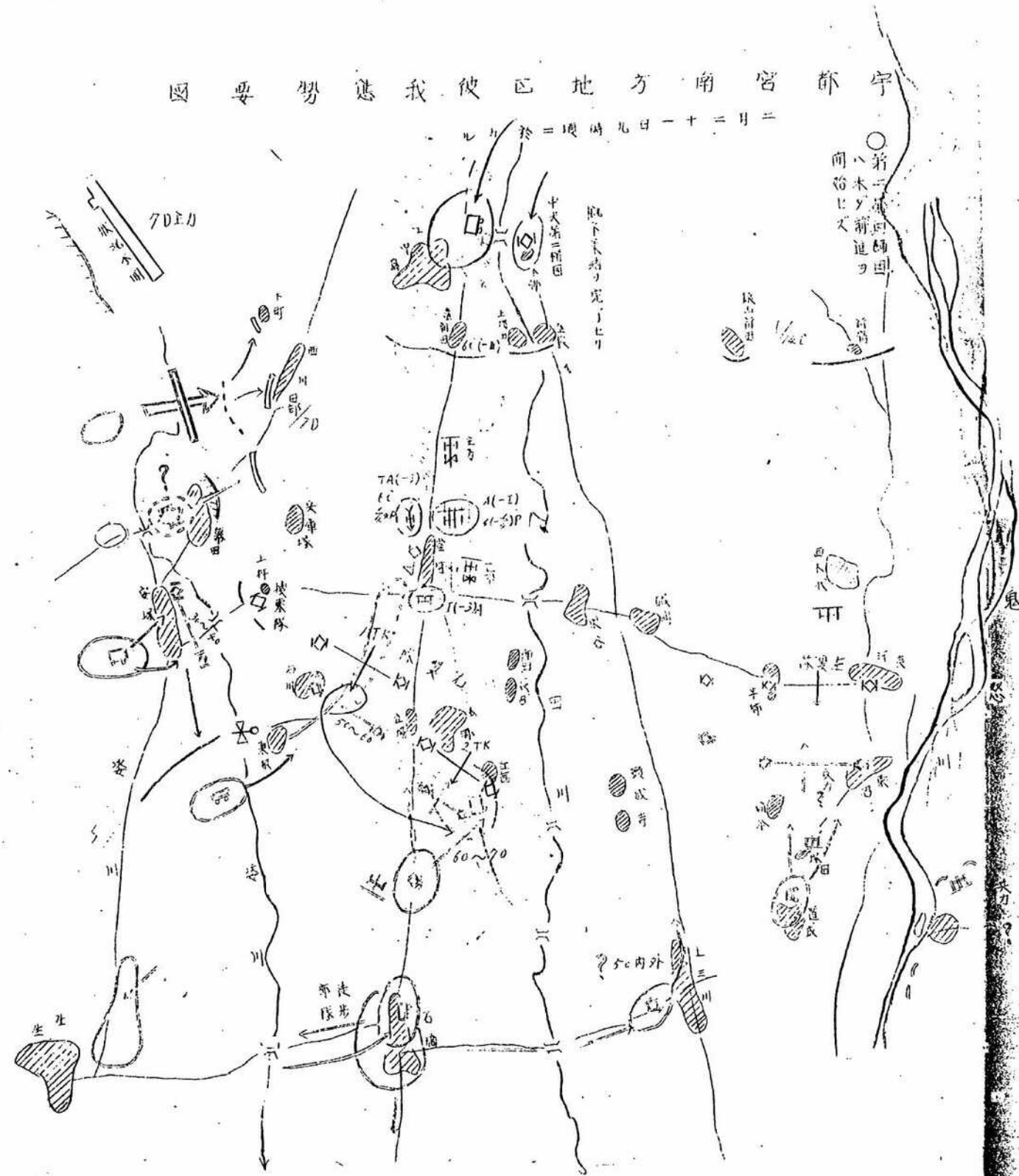
二 右翼隊ハ〇八〇〇過歩兵第六聯隊ト緊密ニ協同シテ臺新田附近ノ敵陣ニ對シテ攻撃ヲ開始セントスルヤ当面ノ敵ハ既ニ動搖ノ色アリ茲ニ於テ右翼隊ハ機ヲ失セズ友軍第一線ヲ超越シ敗退スル敵ヲ突破蹶躄シ大ナル戰果ヲ收メツト突進シ雀宮西側ニ於テ石川方向ヨリ前進シ夫レノ敵戰車五六十輜ト遭遇セルモ敵ハ決戦ヲ避ケ急遽反収セルヲ以テ之ヲ急追ス

三 右翼隊ハ〇八〇〇過第四師團ノ一部ト密ニ協同シテ谷地下附近

四 敵陣ヲ突破シ潰走スル敵ヲ急追ス  
師団長ハ右翼隊ノ後方ヲ躍進シ〇九一〇崔宮北端ニ到ル同時迄ニ  
知リ得タル彼我ノ態勢別故要圖ノ如シ

宇都宮方面地方匪徒我彼要圖

二月十一日頃 = 終



○クノ一帯ハ優勢ナル敵ノ逆襲ヲ受ケ  
其ノ一部ハ下町—西川田ノ線ニ後  
退シヒムラニ至レリ

第十四状況附圖  
○復隊正  
安塚東側ノ敵ト対戦中  
舊面ノ敵ノ一部ハ南方  
ニ移動シ後アリ

○左翼隊正  
ハ、官舎前ニ駐ル  
ハ、敵ヲ攻撃スル  
ハ、敵ヲ追ヒテ上三川  
ニ至リ

○左翼隊  
上三川方向ヨリ前進セル  
隊中隊隊ヲ攻撃中ナリ  
ガコトハ詳細ハ不明

1:32

裏面白紙

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

1 : 25



戦車第一師団長ハ尔後如何ニ戦闘ヲ指導スルヤ

第九問題

第九問題、主要研究事項

- 一 後方部隊（預備隊）特ニ戰車隊ノ用法  
使用方面及、使用ノ時機
- 二 突進力包圍力
- 三 速射砲大隊ノ用法、特ニ使用方面
- 四 歩兵部隊（主力）ノ用法
- 五 石川掩護ノ處置

第十五 狀況

柳田長八佐右翼隊当面ノ敵ヲ突破スル目的ヲ以テハ一五頃ヨリ  
敵兵ノ如ク急置セリ

急置ノ大要

一 戦車第四隊(中野車一隊、工兵第二隊ノ一小隊、患者第  
一隊ノ二分隊)ハ速カニ三川右岸ヲ前進シ上三川方向ヨリ前  
進中ノ敵機甲部隊ヲ突破シタル後右翼隊当面ノ敵ノ右側ヲ攻  
撃セシム

二 速射砲隊(第三中隊、機動歩兵第六中隊、工兵第四中隊ノ一  
小隊)ハ直ニ右翼隊右翼方面ヨリ右翼隊当面ノ敵戦車攻撃  
特ニ上三川方向ヨリ前進中ノ敵機甲部隊ニ注意セシム

三 砲兵隊ハ速射砲ヲ以テ右翼隊ノ戦車ニ砲撃シ一部ヲ以テ上三川方向  
ヨリ前進スル敵機甲部隊ヲ阻止セシム

四 機動歩兵隊(第一、第二大隊、速射砲第三中隊)ハ兵庫塚附

近ニ進カシ師團ノ右側ヲ掩護セシム  
 五、右翼隊ハ石橋方向ニ攻東續行  
 六、右翼隊ハ上三川方向ニ攻東續行  
 七、復索隊ハ現任務續行  
 八、野中第四聯隊第四中隊（中戰車）ハ雀宮ニ向ヒ前進セシム  
 九、師團長ハ~~TK~~ト夫ニ暫ク現在地ニ戰手ノ進移ニ伴ヒ右翼隊ノ後方ハ  
 隊羽街道ニヨリ前進ス

第十、六、状 況

一、右翼隊ノ戰斗ハ激烈ヲ極メ持ニ右翼方面ニ於テハ上三川方向ヨリ  
 前進セル敵戰車我ガ右側ヲ攻東スルニ及ビ一時苦戰ノ状態ニ陥リ  
 夕ルモ戰車第四聯隊ノ機回西側地区ヨリ突進攻東セント米射砲大  
 隊ノ善戰奮斗トニ依リ戰況俄然有利ニ進展シ右翼隊ハ~~TK~~ノ混戦ニ  
 展シ發行人ノ適切ナル協カト相俟ツテ敵戰車ノ大半ヲ殲滅セシメ  
 殘見スル敵ニ對シ追撃ニ及レリ  
 二、右翼隊ハ猶、優勢ナル敵戰車ト遭遇シ之ヲ攻東セルモ鬼怒川右岸  
 ヨリスル敵砲兵ノ妨害等ニ依リ攻東進移セザリシモ右翼隊正面ノ  
 戰況進展ニ依リ漸ク其ノ重圧ヲ脱スルヲ得タリ  
 三、師團長ハ一一〇〇鞘堂新田南端ニ進カセリ同時近ニ師團長ハ左記  
 状況ヲ知レ  
 八、野中第四聯隊ノ如キ敵情及師團長ノ進移ノ態勢  
 乙、第一、第四師團八一三〇〇頃前進ヲ開始スル豫定ナリ

以第六師團当面ノ敵ハ我が第七師團ノ進發ニ伴ヒ動搖ノ色アリ  
第六師團長ハ一〇〇〇頃一部ヲ以テ当面ノ敵ニ対シ攻喪ヲ續行  
セシメ主力ハ守都宮西側地区ニ向フ進發ヲ企図シアリ

ノ上トミテ

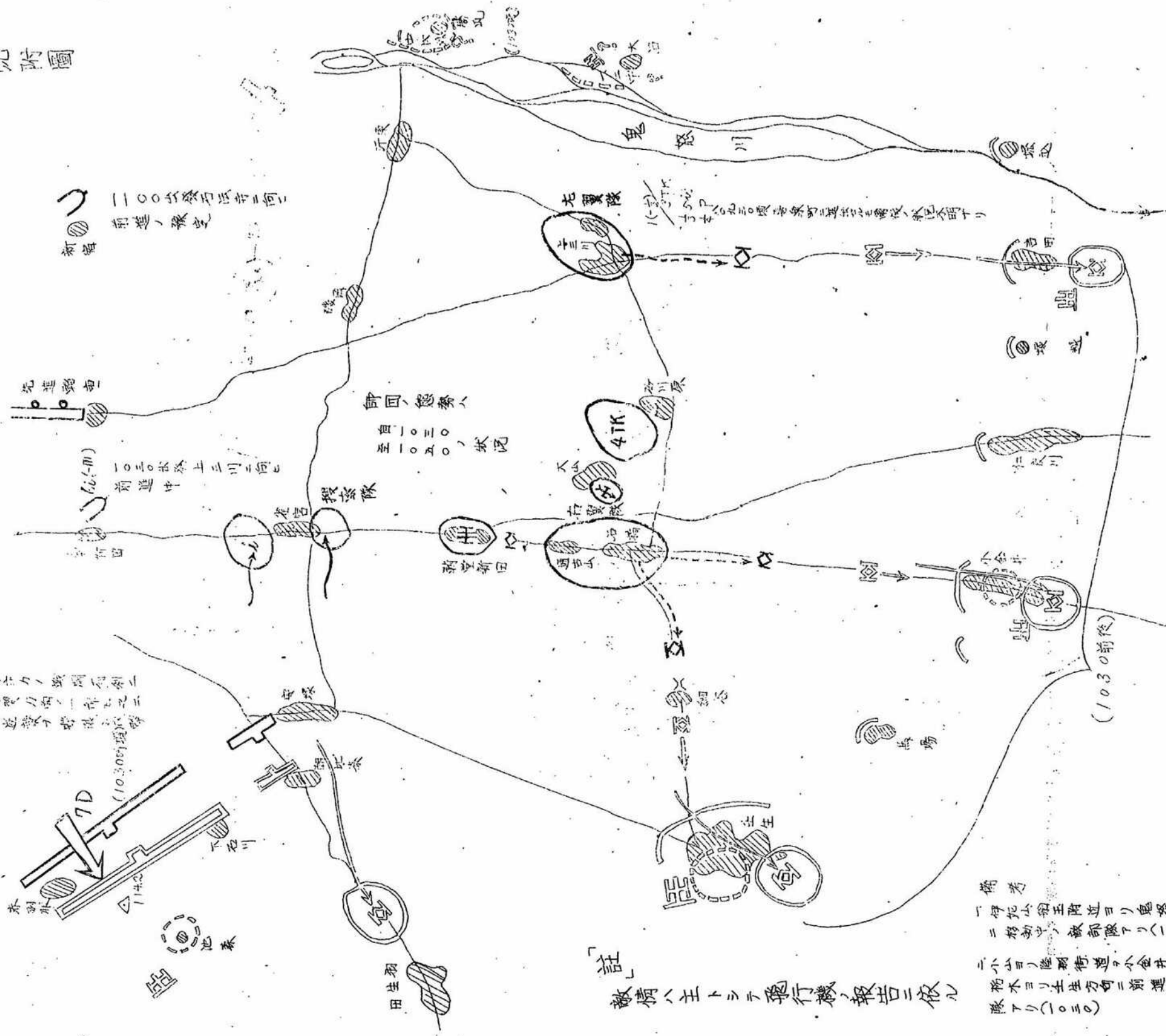




第十六状況附圖

彼我状況要圖

二月二十一日午前七時



○ 1000 歩兵 隊 前進 予定

○ 1000 歩兵 隊 上 三川 方向 前進 中

丁 町 環 道 上 方 へ 敵 隊 不 利 二 態 度 之 生 理 力 弱 一 作 之 二 依 り 敵 之 逆 撃 予 警 戒 中 前 進 中

師 団 態 勢 大 自 一 〇 三 〇 至 一 〇 五 〇 状 況

註 敵 情 主 ト シ テ 飛 行 機 報 告 三 依 ル

備考  
一 伊 尼 山 砲 王 附 近 ヨ リ 鬼 怒 川 右 岸 二 移 動 中 敵 部 隊 ア リ (一 〇 〇 〇)  
二 小 山 ヨ リ 陸 羽 街 道 へ 小 金 井 方 向 三 移 動 中 生 理 力 弱 二 前 進 中 部 隊 ア リ (一 〇 〇 〇)



第十七 状況

師团长ハ第十六状況ニ基キ当面ノ敵ニ介意スルコトナク下館方向ニ突進スル目的ヲ以テ速クニ鬼怒川左岸ニ進発スルニ決シ一〇頃ヨリ逐次左ノ如ク処置ス

処置ノ大要

- 一 飛行隊ハ岩瀬西北高地、下館附近及土浦方面ノ敵情ヲ搜索ス
- 二 歩兵隊ハ鷹岡ヲ経テ東汗附近ニ前進シ搜索隊ト協カシ鬼怒川左岸ノ敵情ヲ確保ヒシメ主力ハ寺内驛(貞西西南角)一ニ集結ス
- 三 搜索隊ハ歩兵隊ノ進路ヲ前進シ歩兵隊ト協カシテ勝谷附近ノ敵情ヲ察シタル後谷田原方面ニ前進シ下館附近及小栗北側高地附近ノ敵情ヲ察ス
- 四 砲兵隊ハ鬼怒川左岸大沼附近ノ敵ヲ突破シテ鬼怒川左岸ニ進発シ
- 五 寺内、三ヶ谷附近ニ集結ス

一 部ヲ以テ大沼附近鬼努川渡河處ヲ確保  
 二 戰車第四聯隊、逐刺砲大隊ハ戰車第四聯隊長ノ指揮ヲ以テ左翼隊  
 三 續行シテ鬼努川右岸ニ進發シ下大沼原<sup>剛</sup>地区ニ集結  
 四 右翼隊ハ雀宮、磯崎、東汗ヲ經テ鬼努川右岸ニ進發ノ後、東原<sup>剛</sup>方面  
 高岡本附近ニ集結  
 五 一部ヲ以テ石橋南端附近ヲ占領シ師団ノ転進ヲ掩護シシメタル後  
 砲兵隊ノ後ヲ續行シ後方警戒  
 六 砲兵隊ハ右翼隊ニ續行シテ鬼努川右岸ニ進發シタル後上高岡<sup>剛</sup>ハ  
 直ニ集結  
 七 防空隊ハ大沼、勝瓜附近ノ渡河處ノ防空ニ任ジタル後師団ノ鬼努  
 川右岸地区集結地ノ防空  
 八 先遣隊重ハ勝瓜ニ向ヒ前進  
 九 師団砲重ハ東汗ニ向ヒ前進  
 十 師団長ハ右翼隊ノ先頭ヲ寺内驛ニ向ヒ前進

參謀ヲ先行シ各部隊ノ集結地ヲ区別セシム  
 其次ハ及処置ノ大要ヲ軍司令官ニ報告關係兵団ニ通報  
 待ニ協力隊行團ニハ師団ノ渡河ニ際シ其ノ上空掩護ヲ要求ス

第十八狀況

一 戦車師団各部隊ノ鬼怒川左岸進出ハ舊右翼隊ノ波河ニ際シ敵機ノ空襲ヲ受ケタルモ其ノ他ノ部隊ノ渡河ハ順調ニ實施セラレタリ

二 師団戦闘司令所ハ一三二〇頃寺内駅西南側ニ進出セリ

三 師団参謀長ハ同所ニ在リテ一四〇〇迄ニ左ノ状況ヲ知ル

四 師団ハ砲兵隊ノ外附置ノ如ク概ネ集結ヲ完了セリ

五 砲兵隊ハ目下集合中ナリ

六 師団各部隊ノ敵情附置ノ如シ

七 兵力ヲ詳シ敵ノ一隊隊ハ本二十一日一三三〇土浦ヲ越シ土浦ノ小田ノ北條道ヲ北條方向ニ前進中ナリ

八 第一師団主力ハ一三三〇頃守野宮東西ノ線ヨリ前進ヲ開始セリ

九 第二師団ハ各一部ヲ以テ野宮及大沼附近ノ渡河點ヲ確保スル等第六師団ノ主力トホニ一三三〇頃守野宮西側地区ニ進出シ

一三〇。頃同地ヲ發シ石橋方向ニ前進セル筈  
五。各師團及甲支隊方面ノ狀況詳ナラス  
六。第三軍ノ右翼ハ一ニ〇。頃野元川西側迄進ヨリ程丹井北側ノ線  
ニ進出シ攻撃續行中ナルモ詳細不明ナリ  
七。益子西側地区ニハ西方ヨリ登却集結中ノ部隊アリ  
又七井(益子北三村)附近ニハ敵ノ機甲大部隊集結シテ  
八。状況不明ハ戦車隊ニ於テ中戰車ニ〇。一ニ五%、軽戦車一  
五。一ニ〇%、其ノ他ノ部隊ハ一。%内外ナルカ如シ

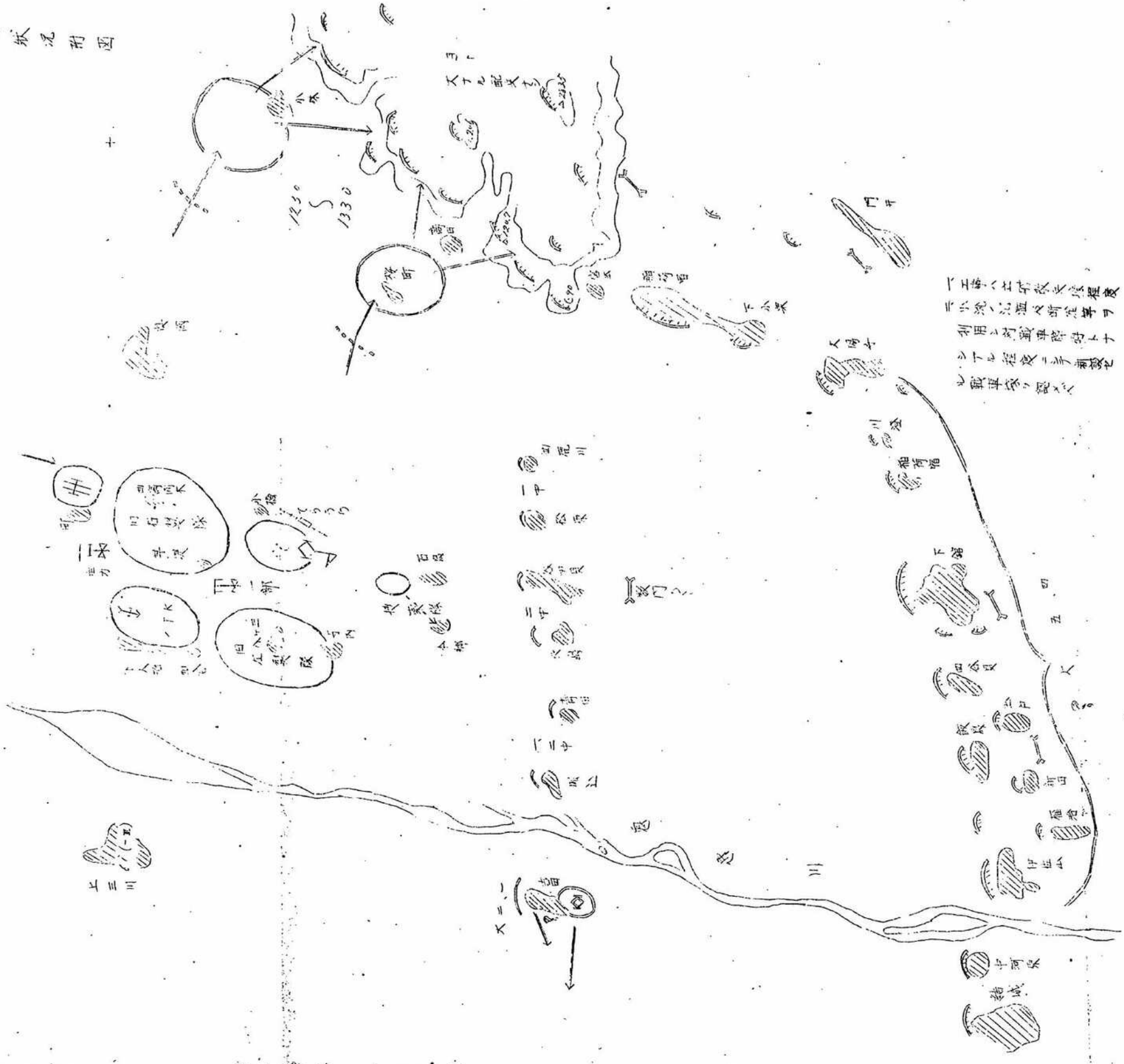


+

第十八城况附圖

彼我状況要圖

昭和二十一年四月一日



一 工事の立寄程度  
 二 小隊の配置  
 三 利用の対戦車隊  
 四 シール程度  
 五 戦車隊の配置

1 : 25



第十四回ニ於ケル師田參謀長ノ状況判断

第十一問題

第十一問題ノ主要研究事項

- 一 師団ノ任務ニ基ク攻撃方
- 二 攻撃方法及時期
- 三 攻撃方

一 界攻撃力遂次攻撃力

之攻撃時期(下掲附近ノ武陣地ニ對スル)

谷田貝附近ノ敵陣地突破後引續キ攻撃力蕩落攻撃ヲ行フヤ  
明二十二日拂曉攻撃スルヤ



第十九狀況

戰車第一師團長ハ第十八狀況ニ基ク師團參謀長ノ狀況判斷ヲ是認  
シ敵力一益田與附近ノ敵陣地ヲ突破シ引續キ下總附近ノ敵陣地ヲ  
攻撃シ下總附近ヲ確保シテ勝代ノ行動ヲ準備スルニ至リ

第十一圖

戰車第一師團大谷野戰團指揮部

(要圖本所 五百令ノ一)

第二十状況

戦車第一師団長ハ参謀長ノ兵災セリ別紙ノ如キ攻撃戦闘指揮要領ヲ  
呈送シ直下ニ各部隊ニ攻撃命令ヲ下置シ攻撃準備ニ着手マシム

戰車第一師團攻撃戰闘指導要領（陸軍省編）

第一 方針

一 師團ハ速カニ谷田貝附近ノ敵陣地ヲ突破シ一帯ニ下籠附近ノ敵陣地ヲ攻撃ス

二 下籠附近ノ敵陣地ヲ攻略セハ該地ヲ確保シテ爾後ノ行動ヲ準備ス

第二 要領

一 谷田貝附近ノ敵陣地ヲ攻略セハ該地ヲ確保シテ爾後ノ行動ヲ準備ス

二 谷田貝附近ノ敵陣地突破

ノ師團ハ下籠附近ノ敵陣地攻撃ノ部署ヲ以テ稻荷新田ノ本郷ノ石

島南端ノ線ニ展開シ各翼隊ハ各々當面ノ敵陣地ヲ突破ス

三 攻撃前進ハ一五〇〇ト豫定スルモ別命ス

四 此ノ間自力ナル豫備隊ヲ以テ師團ノ左側背特ニ七井附近ノ敵陣

甲部隊ノ突進ニ対シ警戒セシム

二、下館附近ノ敵陣地攻撃

ノ各翼隊ハ谷田貝附近ノ敵陣地ヲ突破セハ速カニ一部ヲ以テ下館附近ノ敵陣地ヲ偵察セシメ主力ハ下江連一五折宮一谷部ノ線ニ進出シ各ニ監視面ノ敵陣地ニ対シ速カニ攻撃準備ヲ完了ス

總後ノ攻撃前進ハ師団ニ於テ総制入

三、下館附近ノ敵陣地攻撃ノ為メ攻撃準備時間ハ短メテ之ヲ短縮シ各翼隊主力ノ攻撃前進総制線ニ於ケル停止時間ヲ僅少ニシ敵陣地ヲ急襲ス

四、状態ニヨリ下館攻撃ノ為メ中央兩翼隊ノ一部ヲ召カハ主力ヲ以テ下館ノ敵陣地ノ背後ヲ攻撃セシム

三、下館附近ノ敵陣地攻撃後

ノ師団ハ第一線進出線附近ノ要地ニ下館ヲ確保シテ爾後ノ行動ヲ準備ス

又、搜索隊ハ第一線ヲ超越シテ前進

ノ師団主力ノ爾後ノ行動ハ状況ニ依リ定ム

第三、軍隊区分

左翼隊	中央隊	右翼隊	飛行隊
IR(-II)	17KB(-CTK)	2TKB	7FM
$\frac{4}{2TK}$	6i	II(-6)	
$\frac{1}{4}4P$	IMA	2MA(- $\frac{1}{2}$ )	
	$\frac{1}{3}5P$	5P(- $\frac{1}{3}$ )	

砲兵隊

工兵隊

P(-346)隊

防空隊

防空大隊 (12MA)

隊備隊

STK(-4) 隊  
TA 3P (搜索隊長各部隊ヲ区別ス)

第四 各部隊ノ任務

一 船行隊ハ土浦 岩瀬、益子、七井方向ノ敵備特ニ土浦方向ヨリ前進中ノ敵並ニ七井附近ノ敵機甲部隊ヲ搜索

二 右翼隊ハ皆瀬新田 若菜ノ線ニ展開シ堀込 青田附近ノ敵陣地ヲ突破シ下津連、五所宮ノ線ニ進出シ伊佐山及吳ノ深奥ノ敵陣地ヲ攻撃シマコ野原ノ線ニ進出

三 中央隊ハ八幡西北側ニ展開シ長島附近ノ敵陣地ヲ攻撃シ武蔵ノ線ニ進出シテ既島、西谷ノ線ノ敵陣地ヲ攻撃シ野原ニ進出

四 左翼隊ハ石島南端附近ニ展開シ谷田貝北側ノ敵陣地ヲ突破シテ谷部附近ニ進出シテ下津連附近ノ敵陣地ヲ攻撃シテ新谷附近ニ進出

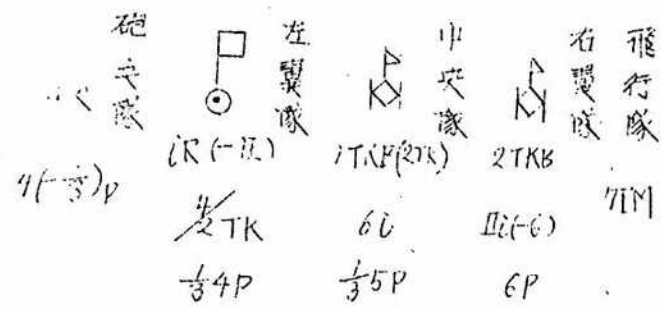
五 両翼隊、中央隊ノ戰鬥地域ノ境界範圍ノ如シ

六 兩翼隊、中央隊ノ攻撃前進ハ一五〇〇ト決定スルモ他各々

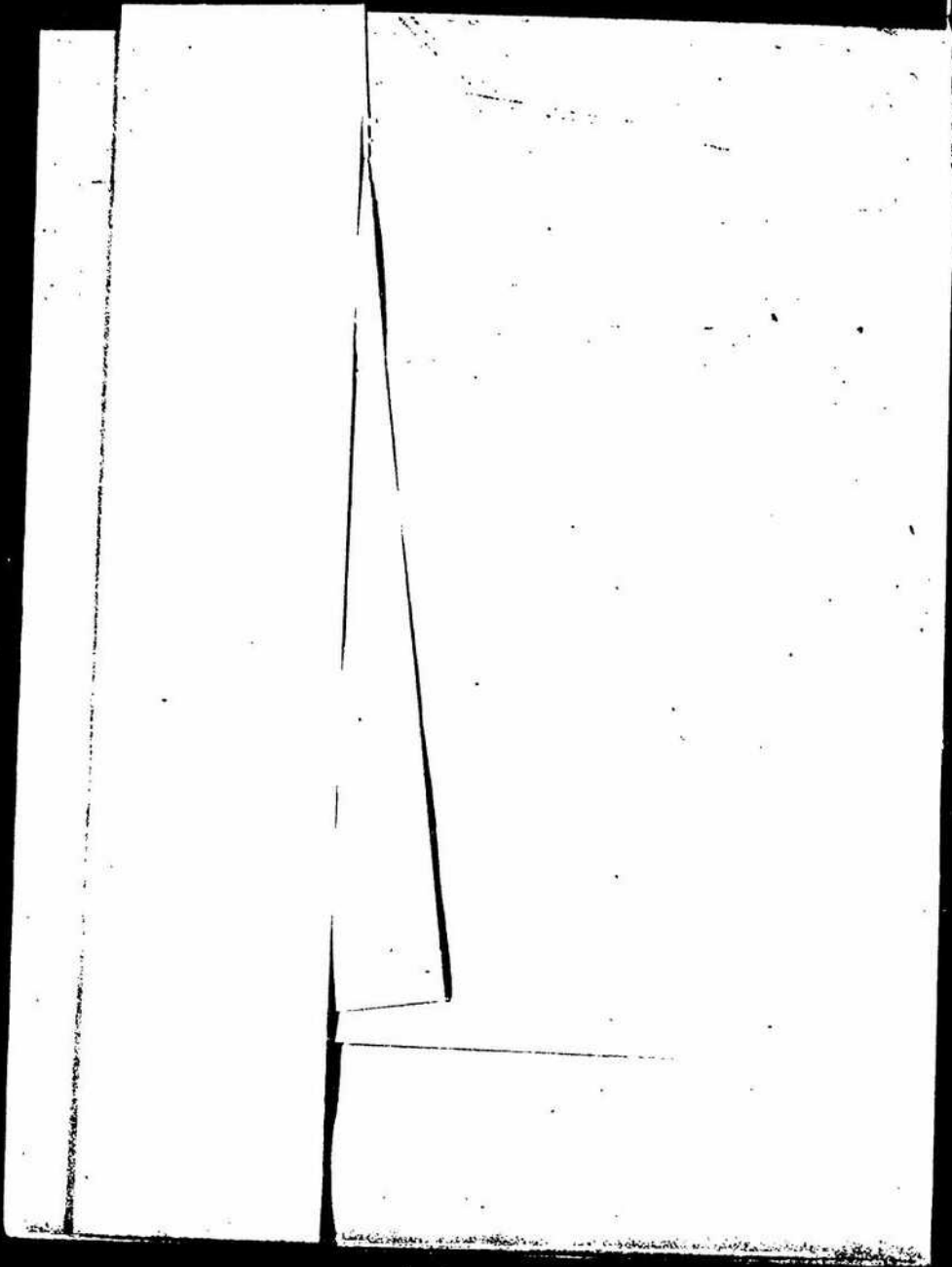
七、**野戦隊** 中央隊ハ谷田具附近ノ攻撃地ヲ突破セバ速カニ一部ヲ以テ下館附近各隊攻取正面ノ敵陣地ヲ偵察セシメ主力ハ所命ノ線ニ進ルニテ速クニ攻取準備ヲ完了ス  
 下江津―五所宮―谷部ノ線ヨリノ攻取前進ハ別命ス  
 八、**砲兵隊** ハ一部ヲ以テ石島西北側地區ニ陣地ヲ占領シテ主トシテ左翼隊ノ攻取ニ主力ヲ以テ若菜<sup>東側</sup>地區ニ陣地ヲ占領シテ右翼隊、中央隊ノ戦場ニ協力  
 前代戦場ノ遺跡ニ併ヒ一部ヲ以テ前本南側附近ニ、主力ヲ以テ五所宮西側附近ニ陣地ヲ推進シ一部ヲ以テ左翼隊ニ、主力ヲ以テ右翼隊及中央隊ノ戦場ニ協力  
 九、**工兵隊** ハ主力ヲ以テ右翼隊 一部ヲ以テ中央隊ニ協力  
 十、**防空隊** ハ初期宿東側附近ニ陣地ヲ占領戦場ノ進歩ニ併ヒ右翼隊、中央隊、中央後ヲ躍進シテ防空ニ任ズ  
 十一、**豫備隊** ハ初期茅根附近ニ在リテ師団ノ左側警戒ニ任ズ并附近敵陣甲

部隊、突進ニ付シテ警戒用後左側背ヲ警戒シツツ中央隊ノ後方ヲ  
 踵進  
 十二連者收容隊ハ患者ノ收容ニ任ス  
 十三先進團重ハ三ヶ谷附近ニ前進シ各隊故障車、收容隊ニ協力  
 十四師團聯重ハ東河附近ニ前進

第二十狀況別紙ノ二  
 第三軍隊區分（口家駒胡ニ依ル）







工  
文  
隊  
P(34,5,6)

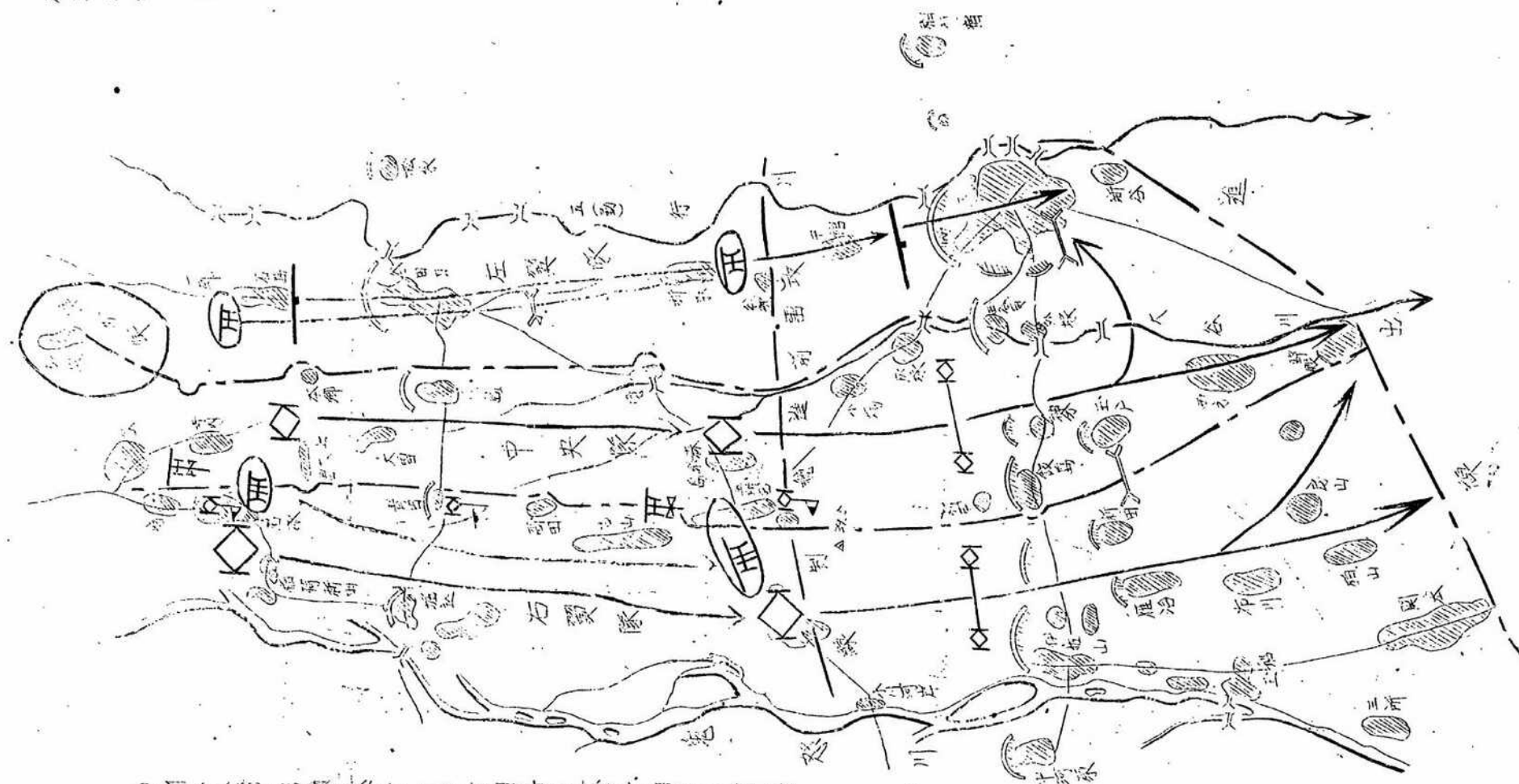
豫  
備  
隊

2TK(4)  
捜索隊  
T4  
3P  
(捜索隊長各部隊ヲ匿慮ス)

下附附近戰形圖

第一一〇一號圖

第一一〇一號圖



○ 甲八五班、岩嶺、釜子、七井方向待三土橋方向ヨリ前進中  
 敵情近三七井附近、敵悉甲部隊、動將ヲ搜索ス



裏面白紙



考	前	隊										隊										隊																		
		野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
		野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野	野
		20	45	50	10	25	5	20	1	1	220	5	10	10	100	115	15	45	135	105	5	5	5	15	30	90	5	10	15	90	15	80	35	95	20	95	10	110	40	40
																				60																				
		調整程度	小一〇	調整程度	調整程度	調整程度	小一六	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度	調整程度

林必勝参二少

野戦自動車廠修理能力概見表

修理要員	區	介	毎回平均修理能力	摘
大動機技兵 五二七名	大修理 三二輛	大修理(定期修理) 三二輛	中修理ノ場合ハ 大修理一輛ヲ中 修理三輛ニ換算 シ得	中修理ノ場合ハ 左ノ如ク換算シ 得 大修理一輛ヲ 五輛ニ 牽引車一輛ヲ 三輛ニ 換算ス
修行自動車工員 二五〇組	大修理(定期修理) 二輛	大修理(定期修理) 二輛	中修理ノ場合ハ 左ノ如ク換算シ 得 大修理一輛ヲ 五輛ニ 牽引車一輛ヲ 三輛ニ 換算ス	中修理ノ場合ハ 左ノ如ク換算シ 得 大修理一輛ヲ 五輛ニ 牽引車一輛ヲ 三輛ニ 換算ス
裝軌車修理 大修理(定期修理) 二輛	大修理(定期修理) 二輛	大修理(定期修理) 二輛	中修理ノ場合ハ 左ノ如ク換算シ 得 大修理一輛ヲ 五輛ニ 牽引車一輛ヲ 三輛ニ 換算ス	中修理ノ場合ハ 左ノ如ク換算シ 得 大修理一輛ヲ 五輛ニ 牽引車一輛ヲ 三輛ニ 換算ス

一、野戦自動車廠ハ主トシテ定期修理大修理ヲ実施スルモノトス  
 二、大修理(定期修理)ノ爲ニ要スル平均作業力ハ左記ヲ標準ト  
 シ計算ス  
 戦車 四五八日 (大動機技兵三人一組ニテ十五日)  
 牽引車 二〇日 (大動機技兵二人一組ニテ十日)  
 自動車 一三八日 (大動機技兵二人一組ニテ六日)  
 三、中修理ノ爲ニ要スル平均作業力ハ左記ヲ標準トシテ計算ス  
 戦車 九日 (大動機技兵三人一組ニテ三日)  
 牽引車 六日 (大動機技兵二人一組ニテ三日)  
 自動車 四日 (大動機技兵二人一組ニテ二日)  
 四、作業力ノ外大動機技兵ノ助手等ニ協力スル車附兵ノ如キモノ  
 若干ヨリ要スルモノトス

裏面白紙

陸軍省

故障発生率及修理區分統計表

備	機動車			陸地攻撃機			海軍機			修理區分
	牽引車	戦車	後方機関自動車	牽引車	戦車	後方機関自動車	牽引車	戦車	後方機関自動車	
一、毎日故障発生率ハ部隊ノ總機甲車軸ニ対シ毎日発生スル故障率ヲ示ス 二、修理區分ハ発生セル故障車ラ一公數ヲ通シ自隊スハ各修理機内 三、ヨリ修理ヲ完成セル%ヲハセルモノニシテ必ずシモ部隊一日ノ 修理能力ヲ示スモノニアラス	30	15	15	45	15	20	10	15	10	毎日故障発生率%
	80	80	70	75	80	70	85	80	80	自隊修理%
	20	7	20	5	15	5	13	5	13	他隊修理%
		13	10	10	20	10	10	20	7	修理區分
	1.5	0.3	0.3	4.5	0.3	1.0	不明	0.1	0.1	修理率
確定ナル統計ナキヲ以テ不明	戦隊ノ統計ヨリ推定	推定	支那軍変其ノ他ノ統計ヲ機 察機ヲ整理セル結果トス	確定ナル統計ナキヲ以テ不明	支那軍変其ノ他ノ統計ヲ機 察機ヲ整理セル結果トス	同	支那軍変其ノ他ノ統計ヲ 機察機ヲ整理セル結果トス	同	支那軍変其ノ他ノ統計ヲ 機察機ヲ整理セル結果トス	摘要

裏面白紙



敵隊 敵隊ヲ通シ戦車乗員ノ死傷

將校ノ死傷	29
下士官ノ死傷	373
兵ノ死傷	234
合計	636

死對傷

將校	21
下士官	11
兵	14
合計	46

戦車乗員

將校	4
下士官	34
兵	41
合計	79

車輛損毀トノ出

戦車乗員損傷率 27%

敵弾ニヨリ 33% 戦車ニヨリ以上ノ加修ヲ加フ  
 戦場敵弾産品 11%  
 修理不可部 13%

即チ人員死傷数ハ当分戦場ヨリ消滅スル戦車数(大破壊)ニ  
 単索組人員ヲ乗レル戦車ト一致ス

四人乗戦車一〇〇台ノ大破ハ人員四〇〇ノ戦車外  
 コノ内戦車ハ半数ハ時日ト共ニ再ビ戦場ニ出ズルモ人員ハ出  
 デス

第三、車輛ノ損毀

ノモンハン 37k 七月三日一三日ノ戦車(大戦車)トセテ一日)

戦車 輕裝甲

出動車 二八 一五

3TK(7) 戦傷車 二一 (75%) 一〇 (66%)

大破又焼損 全車ノ1/3

以上ノ損害ハ大部分砲彈内一ハ肉迫攻撃煙却

砲彈ヲ受ケタルモノニ二車(三一車中)

甲以ニ戦車 六 (80%) 一四車 35%

ニヨル損害 輕裝甲 七 (21%) 一四車 35%

4TK(7月14日) 出動車 九九車中校損総数ニ〇内ハ高品(大焼ケ) 50%



損傷種類（大及中損傷）

火砲ニヨルモノ（八）  
 對戰車砲（11）  
 石面撞（6）  
 小損傷（M9彈）（20）  
 其他（？）（2）

對戰車砲ニ依ル損傷ハ全敵彈ノ損傷ノ25%  
 火砲全部ノ損傷ハ全敵彈ニヨル損傷ノ45%  
 火砲ニ依ル損傷ハ戰車停止又ハ速度低下ノ時受ク  
 大中損傷計ニ十一中火砲ニヨルモノ一九（90%）  
 對戰車砲ニヨルモノ 32%

種類	出動車	敵彈ニヨル損傷	其他	計率（出動車ニ対スル）
輕戰車	三五	一六	五	二一（55%）
中戰車	三八	一六	二	一（25%）
計	九二	三二	九	二〇（57%）

觀察

一 故障回数ハ五九回全車ニ付シ64%トナル大損傷ノ大部ハ火砲（90%）  
 二 敵彈中敵ト損傷關係

十差別一発命中ニテ火災ヲ生ジテ廢品十五発命中スルモ廢品タ  
 シサルモノアリ

一車ニテ多キハ二八発三一発ノモノアリ  
 敵中彈ノミニテ三日以上ノ修理ヲ

三 砲彈ノ命中ト物車ノ状態トノ關係  
 比較的明瞭ナル20車ニツキテ見ルニ在ノ如シ  
 停止（地物利用）セル戰車ニテ破壊セラレタルモノ 8車  
 躍進兼車中破壊セラレタルモノ 6車  
 行近間命中セルモノ 5車

行近間命中セルモノ 5車

(但し右ノ中ノ料以下ノ低送ノモノノ近距離ノモノヲ含ム)  
 各ミリ砲ノ令中ハ殆シト全部戦車停止セルカ動ハ低送トナレル時  
 二令中セリト  
 四、戦車ノ種換ト換傷率  
 中戦車及輕戦車同一戦線ニ使用セル外ニツキ見ルニ換傷率ハ中戦  
 車輕戦車ノ順存ナリ  
 陸装甲ノ損傷少キハ其任務ニセルハキモ此種ハ輕快且小型輕快  
 ルコト大ナルヘシハ機初戦ニハ小型輕快)  
 五、不戦例ノ換傷率ハ吹洲戦ヨリモ大

經理通論概説  
 第一編 總論

昭和十七年十一月二十九日  
 平井正計大佐

極秘

(最極秘事項ハ欠字トナシアルモ尚本極秘  
 事項ヲ掲記シテ以テ取扱注意)

SHIPPING ADVICE # 10133

Box  
SIDE # 1

ITEM # 46